

同志社大学経済学部 同経会

同経会報



No. 92

目次

Contents

同経会会長からのご挨拶

経済学部長からのご挨拶

特別インタビュー

総会・卒業生のつどい

大阪支部からの報告

東海支部からの報告

東京支部からの報告

石川支部からの報告

しめた会からの報告

企画渉外委員会からの報告

海外インターンシップ生からの報告

同経会賞授与式と同経会賞受賞者からの便り

卒業生からの便り

現役学生が語る「わがゼミ」

退任の先生からのご挨拶

2025年 定時総会報告

企業広告と名刺広告

故千玄室様を永久フェローに

寄付へのお礼とご報告

04

05

06

11

13

14

15

16

18

20

22

30

32

33

45

47

54

62

63



編集後記

同経会役員名簿

同経会WEB名簿システムの廃止について

同経会総会・卒業生のつどいの案内

68

69

72

73

同経会会長からのご挨拶

同経会会長 田堂 哲志

Greeting



1. 卒業生ならびに保護者の皆様へ

経済学部、ならびに経済学研究科を終了される皆様、このたびのご卒業を心よりお祝い申し上げます。また、お子様をこれまで育ててこられた保護者の皆様におかれましても何よりの喜びと存じ上げます。

将来に向け限らない可能性を秘めた皆さんは、すでに同志社で学んだ4年間は過ぎ去った過去かもしれないかもしれません。しかし、長い社会人生を歩む中で、同志社を、同経会を抛り所にする場面が必ずやあります。すでに経済学部を卒業し社会で活躍しているOB・OG約6万人が喜んで皆さんをサポートします。また同経会で企画す

る様々な企画への参加が多くの仲間との出会いを生みます。近いうちに皆様とお会いできることを楽しみにしています。

2. 経済学部ならびに学部生の皆様へ

同経会の使命の一つが経済学部ならびに学部生への貢献と考えています。同志社創立150周年事業のアニメ「二百年の夢を見た」の制作に100万円の寄付、長い歴史を紡ぐ「海外インターシップ（アメリカ、マレーシア、台湾、フィンランドにある4社に4名派遣）」にも100万円の支援をさせていただきました。6月には4学部（同経会、理工会、政法会、樹徳会）の共同開催で「就職支援セミナー」を開催しました。若手OB・OGとの交流や「インターシップ」をテーマに取り上げました。2年目を迎えた「同経会奨学金制度」は留学支援、生活支援、スポーツ支援などに200万円を予算計上いたしました。今年の「同経会プロジェクト」は秀和（株）様の支援をいただき学部生とのコラボで商品開発（ペンケース、印鑑ケース、シガレットケース）しました。今後同経会の寄付返礼品の一つに加えて継続支援することを決めました。3月の卒業式は昨年同様に学業優秀者に贈る「同経会賞」（5名）に加え、様々な外部での研究発表で優秀な成績者に贈る「アカデミア賞」、スポーツで優秀な成績者に贈る「スポーツ賞」など40名の卒業生を表彰しました。これからも引き続き経済学部に貢献できる企画を立案、実行して参ります。

3. OB・OGの皆様へ

同経会のもう一つの使命はOB・OGへの貢献と考えています。親睦はそれ自体十分に同窓組織としての意義を

満たしますが、私たち同経会はOB・OGの方々にとってメリットのある企画をできるだけ多く提供することを目指しています。それが同経会の存在価値を高めることになると考えています。大阪支部では総会が5月に開催され講師はネットフリックス合同会社の杉原佳亮氏を招き約85名が参加されました。更にゴルフコンペ（11月）、若手交流会（11月）、ビジネス交流会（2月）も開催しました。東海支部の総会は9月に開催され講師は出版業界で活躍されている（株）メディアジーンの今田素子氏を招き約40名が参加されました。更に若手交流会（5月）、ゴルフコンペ（10月）、クリスマス会（12月）も企画しました。しめた会のつどいは9月に開催され講師は（株）ロゴスコーポレーションの柴田茂樹氏を招き約80名が参加されました。更にBBQ大会（4月）、ゴルフコンペ（5月）、お茶会交流会（2月）を開催しました。東京支部総会は11月に開催され講師は心理言語学者の広瀬友紀氏を招き約50名が参加されました。今年度の総会・卒業生のつどいは7月26日ホテルオークラ京都に於いて開催いたしました。講師はブリッジコンサルティンンググループ（株）の宮崎良一氏を招き約120名が参加されました。また新たに石川支部が設立され12月に設立総会が開催されました。同経会の活動は年を追う毎に活発になっていきます。この状況に甘んじることなく更に魅力のある企画を実行いたします。様々な企画にお一人でも多くの方が参加されることを願っています。

経済学部長からのご挨拶

経済学部長 東良彰

Greeting



このたび、経済学部長を拝命いたしました東良彰です。日頃より母校を温かく見守り、多方面からご支援くださっているOB・OGの皆様は、心より御礼申し上げます。

私たちはいま、情報革命という大きな時代の転換点に立っています。生成AIの急速な進展は利便性を高める一方で不安も生み、社会や経済を揺さぶっています。さらに地政学的リスクなど不確実性が増すなかで、経済学の重要性はいつそう高まっています。経済学は、理論と実証を基盤に、政治・法・社会・歴史・経営・心理・哲学、さらには環境・情報など多様な領域と交差しながら、社会現象の背後にある構造を明らかにしようとしています。技術革新や

価値観の変容が加速する現代において、こうした学際的な視点は欠かせません。

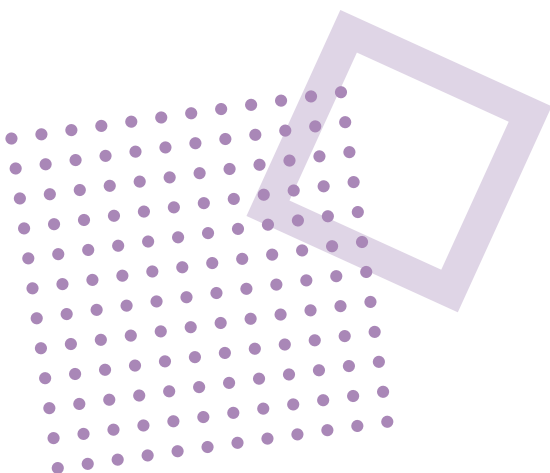
さて、時代の転換点といえば、日本の政治体制が刷新された明治維新の1868年、本学の創立者である新島襄は、すでに米国アモスト大学に学び、日本人として初めて海外で学士号を取得した人物です。1875年には、その経験と志を胸に同志社英学校を設立しました。1890年、新島は遺言において、同志社教育の目的を「精神、活力あり、真誠の自由を愛し、もつて邦家に尽くすべき人物を養成する」と述べています。1821年の創立以来、全米屈指の名門リベラルアーツカレッジでありつづけるアモスト大学。その校訓「Terras Irradiant」——「卒業生が世界を照らす存在となるように」——もまた、新島の精神と深く共鳴しています。

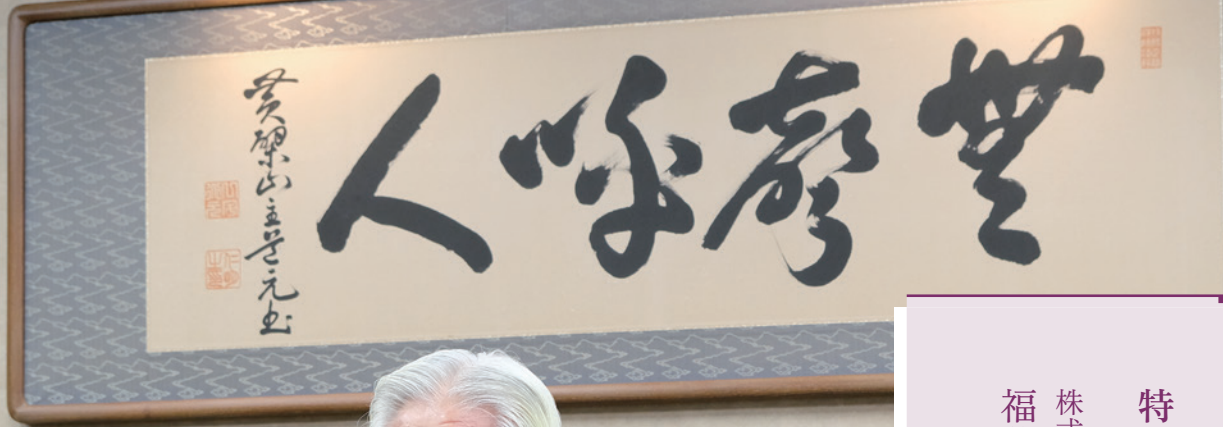
自由人の旺盛な好奇心は、他者との出会いへ踏み出す行動力を生み、その過程で自らを知り、使命を考える契機を与えてくれます。しかし激動の中にあつて、その歩みを実りあるものにするためには、自らを律する精神力と、自由人のための諸技術（リベラルアーツ）としての教養を深めることが不可欠です。教養は、問題に向き合う際の視点や価値判断を形づくり、自分らしさを育む土台となります。

卒業生の皆様が各分野で積み重ねてこられたご経験とご活躍は、本学部にとって大きな励みであると同時に、在学生にとつて未来を描くうえでの貴重な示唆となっています。皆様の歩みは、まさに新島が願った「国の良心」としての自由人の姿を体現するものです。学部としては、こうした伝統と精神を継承しつつ、教育・研究のさらなる発展を目指してまいります。

今後とも、変わらぬご理解と温かいご支援を賜れば

幸いです。皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。





特別インタビュー

株式会社福寿園会長

福井正憲氏

Interview



福井正憲氏

1936年 京都府生まれ

1958年 同志社大学経済学部卒業
福寿園に入社

関係会社社長、福寿園副社長を経て90年に社長就任

関西茶業協議会会長、(社)京都府茶業会議所会頭、

国際的な社会奉仕団体ライオンズクラブ国際協会の国際理事など歴任

先輩方からお話をお伺いする特別インタビューです。今回は株式会社福寿園会長の福井正憲氏に、木津川市の福寿園本社でお話を伺いました。

——最初に、同志社大学に入られるまでのご経緯をお聞かせいただけますでしょうか。

私は代々茶業の家系に生まれ、家も職任一体でした。客間や居間はお客様の接待場所でもあって、地方からの仕入れのお客様や生産家の売り込みのお客様、さらに入りの人たちが往来し、台所も部屋もつねに開け放たれていました。番頭さんや丁稚さんもいて、大勢の人のなかで育ちました。小学校時代は、軍国主義から終戦、民主主義への大きな変革期を経験しました。終戦直後には、教科書の内容も大きく変わり、新聞紙みたいな教科書でしのでいた時もありました。そういう面白い時に、小学校の初代生徒会長もやったりしました。知識欲と体験欲のもっとも強い年ごろに、正反対の教育を受けた数少ない世代かと思います。この経験は「なに」ことも決まったことはない。なに「こ」も変わるものだ。憲法も時代と共に変わる。」と理解できる価値観を持たせてくれました。中学に進学したのは、男女共学を含む新しい学校制度が始まって2年目の頃でした。奈良女子高等師範学校附属女学校が附属中学と附属高校に改編された頃で、女性ばかりの学校であり、当時はまだ男子トイレもなかったように思います。運動場は小さく、野球もできない。体育館はあったが講堂はなく、必要な時は大学の講堂を使っていました。中学、高校の6学年が同じ校舎で学ぶ、中高一貫校のはしりともいえる環境でした。もちろんクラブ活動もなかったのですが、カメラ部とか放送部とか弁論部とか、いろいろな部を作りました。実にフランクな教育を取り入れた学校だったと思います。

高等師範学校の附属校として、高等師範の学生の教育実習期間もあったりして、年齢も近い人も多く、教室には親しみがあふれていました。先生の多くは復員された

方で、中学の先生というより研究者肌の方が多く、大半の先生は、後年大学教授になられました。特に社会の先生は、よく世界の国々の話をしてくれ、チベットの話などにも興味深く耳を傾けたことを覚えています。大人になつてから世界の端への旅を好きになつたきっかけだったかもしれないと思つています。音楽の先生からは、アメリカの西部劇やミュージカルなど映画を通じて本物の音楽を聴くようにとも教えられました。



——そうした学生時代を経て、同志社大学へ進まれたわけですね。

はい、同志社大学経済学部に入學したのですが、大学は社会に出るための下ごしらえと捉え、試験は60点以上の合格ラインでよいと決めたのです。出席はほとんどせず、講義のプリントを買つて定期試験に挑戦してしました。ただ、持ち込みできるテキストを全く買つておらず、直前に書店に買いにいったが品切れで、先輩に借りにいったりした失敗談も多くなりましたね。

友人が選んだ交通経済学のゼミに入りましたが、家業に就く私の卒業後のため、中小企業経営問題をテーマに卒論を書くことを特別に認めていただいたことも思い出されます。後に、当時の教授が、私の結婚披露宴の祝辞で「福井君はできが悪かった」と話されたのは一瞬ショックを受けたものです。しかし、立ち直りの早い私は、隣にいる花嫁に「僕は最小の努力で及第点をとり、無駄な点数をとらなかつたんだ。だから、出来が悪いといわれてもそれは当然。その代わり、うまく時間管理をしてスケジュールを組み、夏は山登りに、冬はスキーにと、楽しく過ごしてきた。評価基準を変えてみれば、これは効率を重視する経済学の基本を実践した優等生ともいえる…」と話したものです。

——充実した学外活動だったのですね。

京都府南部の山城町にある自宅から国鉄奈良線で京都市内に通う車内で、麻雀2組の面子がきまり、同志社近くにあつた雀荘へ毎日のように通つていました。玉突きも先輩に教えられ、週の何日かは市内にある4店ほどの撞球場を周ることが常でした。玉突きにあぶれば2、3本立ての映画見物で時間つぶしをやつたものです。また、友人達と夏は登山やキャンプに、冬はスキーにと、大いに



楽しみました。夏は日本アルプスの白馬、槍、穂高をはじめ、富士五湖などをキャンプで周りました。本栖湖でテントを張り、夜間に出発して富士山登頂でご来光を拝んだこともよい思い出です。

冬のスキーには毎年、少なくとも一週間で3回ずつぐらひは出かけました。友達の兄さんに連れて行つてもらつたことが本格的に楽しむきっかけとなり、始まりは神鍋山スキー場でした。関西では早くから開かれたゲレンデですが、当時はまだリフトもなく、太いロープの結び目につ

かまつて約300mの距離を登ってから滑り降りていました。さらにその奥の鉢伏山スキー場はロープも何もない、ただの雪山で、新雪を滑っているときに前転して頭から雪に突っ込み、一瞬頭がなくなつたのではと肝を冷やしたことを今でも覚えています。

大学時代の学業については、残念ながらあまり誇れることはないのですが、大学卒業後、すぐに社会に順応できるような処世術を学んだということで、「最小のエネルギーで目的を達成する」経済学の奥義を実践したと自負しています。

また、大学構内で思い出されるのは明德館の地下の食堂ですね。薄く叩き広げられた皿いっぱいのカツは最高の贅沢で、いまも目に浮かびます。

——大学を卒業後は、そのままこちらの会社に入社されたのですか。

学生気分を断ち切るためか、親の指示で、入社後すぐに静岡の茶業者に見習い修行に行きました。2年間の予定だったのですが、すでに実家で経験できていたことも多く、2か月で切り上げることになりました。

——会社に入られてからは、お仕事の面でも幅広く活動されたのですか。

入社後は直売店づくりを担当し、併せて西日本の茶問屋の売り込みも担当しました。最初の出張で成果が上がらなかつたので、旅先の旅館で父が泊まっていた最高の部屋に通されましたが、私にはその部屋に泊まる資格がないと安い部屋に変えてもらいました。隣の部屋とはふすま一つで仕切られただけで、夜中に騒がしく、何度か起こされました。以来、旅館は良い部屋に泊まり、その良い部屋に相應しい父に負けない仕事をしようと努めました。

全国各地の茶業者とのお付き合いで商品もさること

ながら、人間関係のバランスを学びました。信頼を得ること、人間を売り込むことの大切さです。私の経営者としての原点ともなった営業体験でした。

昭和39年、父(6代目)の死去により兄が社長になり、私は専務として兄弟二人が福寿園の舵取りを務めることになりました。兄が32歳、私が28歳という若さでした。先行きを懸念する声も聞かれ、経営規模の縮小を勧める声もありましたが、逆に奮起し、私たちの兄弟二人



の若さと積極性が、時代の波にも乗って、さらに福寿園の経営基盤をより強いものにしていったように感じています。

冷蔵倉庫・資材倉庫を伴った冷房完備の新工場の増設を省力化するオートメーション工場や化学研究室の設置など市場競争に勝ち抜く体制を整えました。また、全国の皆さんに福寿園の名前を知っていただくことが一番だと考え、新幹線の沿線を中心に、この路線の伸長に伴って広告看板をだすようなつもりで、北は北海道から南は九州まで、積極的に直売店を出店し、一時は販売所が140か所にものぼりました。

——ティーバッグのような新しい形も、かなり早い段階から手がけておられたわけですね。

父がアイデアマンであり、私もその血を受け継いでいると思います。私は常に工場の設備や機械などの技術革新に挑戦していましたし、商品開発にもいろんなアイデアをだしていました。ティーバッグについても、紅茶用を導入し、昭和39年に発売しましたし、インスタントティーも同じ年に発売しています。

——その中で、日本茶のドリンクにもいち早く取り組まれたわけですね。日本茶を缶飲料のような形で発売されていたのですか。

世界初の日本茶ドリンクは、1983年に当社が発売したほうじ茶を原料とする缶入りの日本茶飲料です。その後1987年に民営化したJR東海様の煎茶ドリンクを、続いてJR西日本様の煎茶ドリンクを開発するなどしています。

——そうした新しい取り組みの延長線上で、社長時代にはサントリーさんとコラボレーションした緑茶飲料「伊右衛門」を出されたわけですか。

サントリーさんとはその前から茶葉の提供などのお取引はしていましたが、ペットボトルのお茶に社名を出し、創業者「伊右衛門」を商品名にするご提案には大変悩みました。急須でいれるお茶とペットボトルのお茶は全く違う、と考えていましたから。そうはいつても、皆さんにお茶により親しんでもらうって、カジュアルに飲んでもらうことは必要だと考えていました。ただし、福寿園の名前を出すのであれば、単にカジュアルだけでなく、その中に



潤いや憩いのある「ブランド品」といえるようなものではないかなと思います。単にのどの渴きをいやすだけでなく、納得のいくレベルまでもつていく、その前提でサントリーさんと合意ができました。「急須でいれたお茶のもつ味わい」を実現するために、200種類以上もの茶葉から厳選し、茶葉の火入れ加工技術なども新たに開発し、実用新案もとっています。サントリーさんの飲料化の技術なども合わせ、ペットボトルのお茶として今までになかった最高のものをつくることできました。常に革新してきた福寿園の歴史をみますとご先祖様も納得してくれるのではないかと考えました。これなら「伊右衛門」の名に恥じないものができたと。

——そうした判断には、海外経験の積み重ねの背景もあるのでしょうか？

そうおもいます。私の最初の海外旅行は昭和44年の母と一緒に1か月間の世界一周でした。最初の戸惑いは海外の地図でした。日本では地図の真ん中に日本がありますが、海外では一番端になっています。アフリカの自然動物園では見物人が檻に入っていました。日本では檻の中の動物を見ているですね。ソ連(当時)では自国の通貨のルーブルでは何も買えない、敵国であるはずの米国のドルならドルショップで何でも買えました。

その後も続けた地球旅は、海外173回、世界160か国を数えるまでになりました。世界をみると日本の常識とは異なっている面が多々あることを知らされます。こうした経験から「世界の常識は2つある。どちらも正しい」「世界基準で考える」ことを学びました。

また、私は行動基準として「百聞は一見に如かず」を心がけています。正しくは「見に如かずですが、一見して百を知るほど優秀ではありませんので、できるだけ貪欲に多



くを見るのが大切です。スマホなどで同じ世代の人だけでコミュニケーションしているのは進歩もないと思います。情報過多の時代ですが、その選択は過去の経験で選んでいますから、そのレベルでしか対応できない。時代は日進月歩です。新しい感性、感覚が問われています。

そのための旅であり、現場をみることです。真冬のアラスカでマイナス40℃の夜空に現れるオーロラをみて感激していた時、現地の人に何をしているのかと聞かれまし

た。現地では日常の光景ですから何をやっているのかと不思議だったようです。ハワイ・キラウエア火山で味わった類に伝わるマグマの灼熱に地球の創成期はこんな感じかと思いました。アフリカなどで金や銀を首や手に巻いている人を見ましたが、外へでた時戻っても自分の村や国がない場合の対策だと理解しました。何が起ころかわからないという現実が世界にはあります。

——最後に、同経会報は卒業される学生さんにもお送りしますので、これから社会へ出ていく後輩たちへの花向けのお言葉を頂ければと思います。

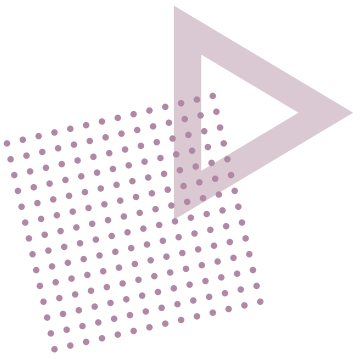
「百聞は百見に如かず」。やっぱり自分で体験しないと。集団生活ができず規律が守れない、リーダーシップが取れない人が増えているように思います。未知なるものへもつと挑戦して自分自身を鍛えてほしいです。例えば、もつと海外へ出て自分を試してほしいです。ツアーではなくね。同世代の人ばかりではなく年長者や外国人とか、未知なる人と話をしなさい、と言いたいですね。私も体験したから偉そうに言えるわけです。体験しないと先は読めない。

また「氷山の一角で仕事をする」。氷山は海上に8分の1、海面下に8分の7の体積をもっています。8分の7はストック。このストックが8分の1を支えています。昔、氷山を見るためにカナダ北西部のニューファンドランドへも行ききました。あのタイタニック号が衝突した氷山が現れたところですよ。チャーター船で向かいましたが、氷山から10kmあたりで気温がドンと10℃近く下がりました。8分の7の威力を実感しました。会話などは知識の8分の1を持ち出して行くべきで、逆に8分の7で行うと浅はかな印象を与えてしまいます。

リーダーとしての判断基準として便利なのが「小事は

好き嫌いで判断し、中事は良い悪いで判断し、大事は正しいか正しくないかで判断する」です。良いか悪いか。例えば今日何を食べに行こうというような小さな話ならば、好き嫌いで良いです。中くらいのことは、団体のことであっても100人くらいのことならば、良いか悪いかです。そしてより大きなことは、正しいか、正しくないかで判断します。大きな団体の重要な役割についている人などは、往々にして自分の好みや良いか悪いかで判断しやすいですが、正しいか正しくないかで判断しなければなりません。できるだけ多様なものに触れ、なんでもよいから「これをやったら世界」と胸を張れるものを自分だけの「ものさし」をしつかり持つて、一つだけでも見つけてほしいと思います。

——ありがとうございます。体験を重ね、自らの基準を持ち、広い視野で物事を見ていくことの大切さを、改めて感じました。卒業生へのはなむけとして、ぜひ会報でしつかりお伝えしたいと思います。本日は誠にありがとうございました。



開催報告

総会・卒業生のつどい

文・執行理事 廣石佑志
(平成13年卒)

Report



七月二十六日(土)、同志社大学経済学部「卒業生のつどい」が、昨年に引き続きホテルオークラ京都にて開催されました。真夏の京都らしい暑さの中ではありませんでしたが、講師・来賓、そして現役学生十七名を含む総勢百十四名の参加者が一堂に会し、世代を超えた交流の場が熱気とともに繰り広げられました。

総合司会は、河合祐子執行理事(平成十三年卒)が、総会は鍵専務理事(平成二年卒)の司会により進行されました。会則にのっとり田堂哲志会長(昭和五十二年卒)が議長を務め、二〇二四年度の事業報告および決算報告、ならびに二〇二五年度の事業計画と予算案について審議が行われました。同経会が推進する学生への奨学金支援や、産学連携のプロジェクト、組織の若返りに向けた取り組みなどが改めて共有され、すべての議案が満場一致で承認されました。

総会に続く講演会では、田堂会長の開会挨拶に始まり、ブリッジコンサルティンググループ株式会社代表取締役の宮崎良一氏(平成十年商卒)を講師にお迎えし、「公認会計士資格取得から起業、上場まで」と題してご講演



いただきました。在学中の猛勉強から、起業を経て上場を果たすまでの壮絶な挑戦の軌跡と、その根底にある同志社精神について、実体験に基づく貴重なお話を伺いました。後輩である現役学生のみならず、第一線で活躍するOB・OGにとっても大きな刺激と勇気を与える一時間となりました。

休憩を挟んで行われた懇親パーティーは、来賓を代表して八田英二同志社総長・理事長より、創立百五十周年に向けた力強い祝辞を頂戴し、続いて横井和彦経済学部長より、学部の近況報告と温かい励ましのお言葉をいただきました。その後、横井学部長のご発声により一同乾杯

し、和やかな歓談のひとつが始まりました。

会場では、ベテランから若手、そして現役学生がテーブルを囲み、母校の思い出や近況について語り合う姿が随所で見られました。恒例の「お楽しみ抽選会」では、田舎会長をはじめ各支部長、「しめた会」の宮村会長らから提供された豪華賞品が次々と手渡され、当選番号が読み上げられるたびに大きな歓声が上がります。会場の盛り上がりは最高潮に達しました。

宴の締めくくりとして、中村恭俊副会長（昭和六十年卒）より閉会の辞が述べられた後、全員でカレッジソングを斉唱。母校への愛着と再会を誓い合う中、盛会のうちに幕を閉じました。

今回のつどいでも、若い卒業生や現役学生の積極的な参加が目立ち、伝統ある同経会が次世代へと着実に引き継がれていることを実感させる一日となりました。



大阪支部からの報告

文・大阪支部長 清水友紀
(平成6年卒)

Report



2025年度の大阪支部としての主な活動実績は以下の通りです。

① 5月13日 同経会大阪支部のつどい

講師：ネットフリックス合同会社

公共政策担当ディレクター 杉原佳堯氏

参加者：86名

② 11月1日 リユニオンゴルフコンペ

同経会2組エントリー

③ 11月5日 若手交流会 & アイランド北浜

参加者：51名

④ 2月28日 ビジネス交流会大阪(三学部合同)

主 幹：同経会大阪

参加者：67名(うち経済24名)

① 大阪支部のつどいではネットフリックスの杉原氏をお招きし「パブリックポリシーとルールメイキングへの働きかけの実際」をテーマにご講演をいただきました。当日はITやエンタメ業界に関心の高い若手や初参加の方も多くご来場いただき、盛況に終えることができました。

② 校友会大阪支部幹事のリユニオンゴルフコンペに同経会から田堂会長をはじめ2組8名のエントリーを行いました。ゴルフに自信のある皆さま、ぜひ同経会チームからエントリーをお願いします!!

③ は昨年に続き若手との交流を目的にした企画です。今回は北浜のリバーサイドにあるお洒落なレストランを貸し切りにして開催しました。参加者は昨年を大きく上回り50名を超えて大いに盛り上がりました。同経会大阪支部の活動もPRでき役員と若手の懇親も図れ、今後の同経会の活性化に繋がるイベントとなりました。

④ 4回目となりました三学部(同経会、政法会、樹徳



会)合同のビジネス交流会です。今回は同経会が幹事学部となり、企画・運営を行いました。従来の貸会議室から西梅田のレストランを貸し切りにして開催しました。熱いビジネス談義に2時間では時間が足りないとお声をいただくほど盛り上がりました。

2026年度も会員の皆さまが楽しく集える会を継続して企画して参ります。ご参加いただきました皆さま本当にありがとうございます。最後になりますが運営にご尽力いただきました大阪支部の役員の皆さまにも心より感謝申し上げます。

東海支部からの報告

「同経会東海支部の 2025年度活動報告」

文・東海支部長 岩村 稔
(昭和54年卒)

Report



同経会東海支部では2025年度も昨年同様、夏の東海支部総会・つどいと若手の参画を目的とした若手交流会を開催しました。

今年で第5回となる同経会総会・つどいは9月13日(土)に名鉄グランドホテルで開催し42名の参加を頂きました。講演は(株)メディアジーンの前田素子代表取締役CEOにお話し「企業とメディアビジネス、国境を越えてビジネスを考える」という内容で講演頂き今田様の逆境を逆にチャンスと考える姿、AIの危険性、情報の信頼性といった話について考えさせられるような内容で興味深く拝聴しました。また、質疑応答でも盛り上がり時間をかなりオーバーしました。

尚、東海支部のつどいで会場として使用していた名鉄グランドホテルは名駅周辺の再開発のため来年から使用できなくなるので次年度以降の開催については新たな会場や進め方について検討します。

若い卒業生を対象にした若手交流会は昨年同様2回実施。春の開催は、5月23日(金)に食事を名古屋駅近くの『DUBLIN Room』で開催しました。参加者が12名と少なく予定した人数に達しなかったため店を貸切することはできませんでしたが、予定時間を超えて大いに盛り上がりました。

冬開催は12月6日(土)にクリスマス会をレストラン『LEVEL4』を貸し切りで開催。参加人数は26名。今年の若手交流会はテーブルを囲んで若い方同士で会話を楽しく盛り上がりつつあったので、特にゲームも実施せずじゃんけん大会で準備した商品を獲得するだけにしましたがこれだけでも盛り上がりました。今回参加頂いた方が今後の同経会活動に継続参加頂くことを期待します。今年度、初めてのイベントとしてゴルフコンペも実施。

10月4日(土)に定光寺CCにて2組8名でプレー。初めての企画でしたがのびのびプレーができて楽しめました。次年度もゴルフをやりたいという方が多ければゴルフコンペを企画したいと思います。

同経会東海支部としては他支部と比べても会員の参加がまだまだ少ないようなので今後も会員増強に向け様々な企画を検討し発信していきたいと思えます。



東京支部からの報告
「2025年（第21回）
同経会東京支部総会
東京の集い開催報告」

文・東京支部長 田村憲一
(昭和58年卒)

Report



11月12日(水)18時30分から内幸町、日本プレスセンタービル10階ホールにて開催いたしました。当日は、幅広い世代から50名の校友にご参加いただき盛会となりました。

最初に田堂同経会会長より同経会総会資料を基に会員数、財務基盤、情報発信強化、経済学部への貢献、OB・OG貢献についてご報告いただき、その後東京支部活動・会計報告を行い、ご承認いただきました。

続く今年の講演会は、「生成AI全盛、LLM(大規模言語モデル)は万能か、少し立ち止まって心理言語学の話聞いてみませんか?」という事で、東京大学大学院総合文化研究科で言語情報科学を専攻されている広瀬友紀教授をお招きし「とつても身近な言葉の認知科学」と題し、言葉の認知科学についてご講演いただきました。

私たちが言葉をどのように獲得しどのように運用しているのか?

言語習得の最中にある子どもたちと、そして、私たちの身近な存在である関西人のみなさんから学べることを具体的な事例を用いて楽しく分かりやすくご講演いただきました。

講演後も活発な質問が寄せられ時間の都合で受けきれませんでしたので、宴会場でも広瀬先生を取り囲んで活発な意見交換がなされていました。

広瀬先生は大阪府のご出身。1988年同志社国際高校卒業、1992年同志社大学文学部英文科卒業後、ニューヨーク市立大学にて言語学博士号(Ph. D. in Linguistics)を取得。電気通信大学を経て、現在、東京大学大学院総合文化研究科教授でいらつしやいます。



場所を宴会場へ移し、同志社大学経済学部長の横井和彦先生からご挨拶及び同志社創立150周年記念アニメーションへの寄付御礼のお言葉をいただきました。

末永副支部長の乾杯で懇親会がスタート。商品券、グルメギフト券、同志社150周年クッキー、広瀬先生の著書「ちいさい言語学者の冒険」の大抽選会後、志井副支部長の発声による同志社チャア、カレッジソングで東京の集いを締めくくりました。帰りには同志社ボールペンと150周年クリアファイルをお土産にお持ち帰りいただき、楽しく和やかな会となりました。

同経会石川支部が発足 設立総会で「学び」と 能登復興支援を掲げ

文・事務局長 福田信一
(昭和50年卒)

Report



あいさつする平野豊同経会石川支部長

同志社大学経済学部卒業生で組織する同経会石川支部の設立総会は2025(令和7)年12月7日、金沢市武蔵町のANAホリデイ・イン金沢スカイで開かれ、30人が母校の発展を期し尽力するとともに、学びを深め、能登半島地震復興支援にも取り組むことを誓い合いました。

同志社大学創立150周年である2025年中の発足へ向け初夏から準備を進めました。同経会本部から会長の田堂哲志氏、副会長の土橋純二郎氏、同じく中村恭俊氏、専務理事の鍵圭一郎氏と、横井和彦経済学部長が出席。村上博丈石川支部副支部長が司会を務め、太田善久副支部長が開会を宣言しました。

冒頭、2025年8月に102歳で亡くなられた同経会名誉顧問で茶道裏千家前家元の千玄室様に黙とうを捧げました。千様は24年、石川県の地元紙、北國新聞のインタビューに、加賀藩で茶道を指南した先祖仙叟宗室のエピソードを引き合いにして、「私は加賀藩の武士です」と明言されたことも紹介されました。

来賓紹介では、京都からの5人のほか、横川浩信同志社校友会石川県支部長、古谷利彦同支部加賀分会長ら4人を紹介。続いて、八田伸二石川支部顧問(昭和43年卒)が「北陸に支部はなく、同経会本部に打診すると、日本海側初の拠点発足を歓迎すること、中山賢一先輩とも相談し、同志社創立150周年の大節目に発足するよう準備を進めました。きょうの日を迎えたのは感無量です」と発足の経緯を語りました。

議事では、議長に平野豊支部長が就き、議事録署名人として、中森悦子、荻澤将徳の両執行理事を選任しました。福田信一事務局長が第1〜4号議案までを読み上げ、各号とも異議はなく承認されました。

第1号議案は役員選任の件で、当初の設立準備委員会



祝辞を述べる田堂哲志同経会会長

の発起人15人から選任されました。中山賢一・八田伸一顧問、平野豊支部長、太田善久・村上博丈副支部長、福田信一事務局長と9人の執行理事です。

第2号議案は設立総会予算承認の件で、収入・支出とも50万円で承認されました。

第3号議案は2026年度活動計画決定の件で、同経会石川支部総会および記念講演会開催と能登半島地震支援の視察旅行について承認されました。

第4号議案は2026年度予算承認の件で、支部総会懇親会運営費40万円、能登視察運営費15万円について承認されました。

あらためて選任された平野豊支部長があいさつに立ち、「ただいま選任された役員には、支部長、副支部長、事務

局長はもとより執行理事全員にそれぞれ役割を担ってもらいます。支部の会則を制定した上で、二つの事業を行いたい。一つは学びを深めること、もう一つは能登半島地震復興支援です。本日本お越しの田堂会長がおっしゃっている言葉で組織運営のこつに、年配者はギブアンドテイクならぬギブアンドギブ、若い人はテイクアンドテイクでいくのが望ましいというのがあります。私はギブアンドギブを信条とします。皆さん、同経会発展のため一緒にやっていきましょう」と力強く呼びかけました。

来賓を代表して田堂哲志会長が祝辞を述べるとともに、今年から始めた経済学部奨学金制度や従来と同経会賞に加えてアカデミア賞、スポーツ賞について紹介しました。横井和彦経済学部長は能登半島地震の復興支援を使命とするのは時宜になつていると称え、横川浩信校友会石川県支部長も祝辞を述べました。

同志社校友会福井県支部の軽部利宣支部長と山本道隆前支部長（福井新聞社常務取締役）からの祝電が披露され、中田浩一執行理事が閉会の辞を述べました。

このあと税理士である平野豊支部長が「財政と税の歴史」と題し記念講演。平野支部長は、今年と来年の干支を引き合いに、それぞれのキーワードに言及。巳年は「大事件」、午年は「変化」として、来たる年の経済動向などを占いました。

本題である財政と税の歴史については米国のトランプ大統領と富豪イーロン・マスク氏の財政観を対比させ、古今東西の主な為政者の財政例を紹介しました。

その上で、日本のふるさと納税の本質をつき、同経会石川支部が進める能登半島地震の復興支援こそ、寄付金によつて大きく道が開かれると力説。同経会の使命である、現役学生のための寄付も呼びかけました。



田堂会長（右）から同経会バッジを受ける平野支部長

続く懇親会は太田善久副支部長が司会を務め、出席者最年長の須野原雄・元金沢市副市長（昭和41年卒）の発声で声高らかに乾杯。来賓の北陸税理士会の林幹二氏、同じく柴田昌彦氏、同志社校友会石川県支部加賀分会長の高谷利彦氏、同じく能登分会長と同経会石川支部執行理事の上坂俊就氏が祝辞を述べました。

会場には同志社大学経済学部同経会石川支部の紫地白抜きの大旗が掲げられ、田堂会長から平野支部長へ役員15名分のバッジ支給も行われ、早速、胸に着用する姿が目立ちました。

和気あいあいに杯を交わし談笑の輪が広がる中、中村太郎執行理事が中締めのおいさつと三々七拍子の音頭を取り、山本正樹会員（同志社校友会石川県支部常任理事）がカレッジソング、同志社チアリーダー、八田伸二顧問の閉会の辞で散会しました。

同経会石川支部の役員は次の皆さん。（敬称略）
中山賢二（昭和39年卒）
八田伸二（昭和43年卒）



同経会設立総会に出席した面々

支部長 平野 豊（昭和51年卒）
副支部長 太田善久（昭和51年卒）
村上博丈（平成8年卒）
事務局長 福田信一（昭和50年卒）
執行理事 福田和夫（昭和57年卒）
中田浩一（昭和58年卒）

中村太郎（昭和62年卒）
山口清則（平成元年卒）
鷺池誠一（平成5年卒）
中森悦子（平成10年卒）
上坂俊就（平成11年卒）
荻澤将徳（平成25年卒）
朝長穂奈美（平成27年卒）

しめた会からの活動報告

しめた会会長 宮村定男
(昭和56年卒)

Report



「しめた会」は同経会の活動がより活発に行われる事を目指して、新島襄大先生の幼名である七五三太をお借りして、出来るだけ若手同経会員の連携を密にして行くことを心がけ2014年の当会の創設から10年間強にわたり活動を行ってまいりました。特に昨年度から出来るだけ多くの方にお集まりいただく事を大きな目標に掲げて新企画に取り組んで参りました。今年度もその流れをしっかりとしたものにするために「しめた会」の執行理事のメンバーにおいて色々と議論を行い活動にも繋げて参りましたがその内容ついて報告させていただきます。

まず昨年度の「同志社グルメ選交流会」の流れを受け止めながら、子どもたちを含めた家庭参加もしやす



いものにするためにバーベキュー会に企画を切り替え、2025年4月5日(土)にLOGOSLAND城陽で開催いたしました。子ども6名を含んだ30名で実施し、明るく賑やかに楽しんでいただきました。実はこの開催場所を選んだのは、この会場を運営している株式会社ロゴスコーポレーションの代表取締役社長柴田社長氏(同志社大学商学部卒)に後で述べさせていただきます今年度の「第9回しめた会」の講演会の講師をお願いする事が背景にございます。

次の企画として「第2回ゴルフコンペ」を2025年5月24日(土)に第1回と同様のダイヤモンド滋賀CCにおいて6組24名で開催し、第1回からの連続参加者に



加え、初参加の方も結構おいでになり、大いに盛り上がりながらプレーにも励んでいただきました。

続いて先程触れました「第9回しめた会」については、2025年9月27日(土)に、からすま京都ホテルで総勢77名の方にご参加いただき、その中には現役学生の方もおいでになり、参加年齢層が拡大して行ったところとなりました。第1部の講演会では先程触れさせていただいた柴田茂樹社長に講演をいただきました。ご祖父様が創業された老舗企業を引き継ぎ、時代の流れに合わせながら大胆に舵を切り替え、アウトドアへ事業転換

を行われました。常に価値創造を目指して困難な局面に陥った場合でも、将来を見通し様々な施策を行いながら事業を拡大してこられた事をお伝えいただきました。この内容から多角的に物事を考える必要性を感じられた方が大勢おられたと思います。お話はユーモアを交えながら、より自分の中に取り込み易く感じさせていただきました。参加の皆様によりクリエイティブに取り組みとう意識してもらえようリードしていただいた素晴らしい講演に心から感謝を申し上げます。



第2部の懇親会では、多くの方が講演会の内容を語り合いながら、またそれにとどまらず一献を傾けながら今思いつく事等を色々な方と意見交換されておられる方も多くおいでになり、また名刺交換を積極的に行われている姿もあり頼もしさも感じられたところです。今回企画でありました同志社大学軽音楽部の学生による演奏も実施し、音楽をBGMと楽しんでもらえた方々もおられたと感じております。

さらに初企画として「お茶会 交流会」を2026年2月21日(土)に同志社同志会館にて、講師に同志社大学経済学部の太田直希助教をお迎えし開催いたしました。初体験の方もおられ、色々学ばれることも多くあったと思っております。

企画渉外委員会からの 報告

副会長・企画渉外委員長 中村 恭俊
(昭和60年卒)

Report



企画渉外委員会では経済学部と連携して学生の教育向上や社会的な体験に資するプロジェクトの創生、実現に注力するとともに、他学部同窓会とも連携して学生や各学部卒業生のお役に立つ事業を検討、推進しております。

1. 同経会プロジェクト

本年度は同経会・奥敏郎執行理事が経営されています秀和株式会社におきまして、がま口のデザインの企画等を体験させていただきました。同社は京都にあるがま口の袋物を専門とした工房で、古くからある定番の形は元より、今までにない新しいがま口の袋物の製造にもこだわっております。「がま口の専門店AYANOKOJI」といえばご存知の方も多いかと思います。そこで学生ならではのアイデアでデザインしたものを作成させていただきました。この作品は2026年度に同経会にご寄付いただいた方への返礼品として採用する予定です。



印鑑ケース



ペンケース

2. 同経会奨学金の贈呈

第2回目となる同経会奨学金を贈呈いたしました。今年度も生活支援プログラム3名(二人あたり30万円、総額90万円)、海外留学支援プログラム10名程度(総額200万円と昨年の繰越20万円)、トップアスリート支援プログラム2名(うち1名は昨年の繰越。総額40万円)の計画でありましたが、実績は生活支援プログラムが計画通り3名、海外留学支援プログラムには6名(110万円)、トップアスリート支援プログラムは該当者なしでした。

海外留学支援プログラムは他学部比べて経済学部生の留学が少ないことから経済学部からの希望で留学推進の一助にと制定しておりますが、給付希望者が半分ということは残念な結果でありました。

3. 同経会賞の顕彰

本年度も同経会賞の顕彰をおこないました。顕彰された方は同経会賞授与式と受賞者からの便りに掲載しております。随分と学部内認知、浸透が進んできました。アカデミア賞も公認会計士試験合格に加え種々のコンク



シガレットケース

ルでの上位入賞、起業、音楽コンクールでの入賞等々、従来の枠にとられない学生時代の活動を顕彰できて嬉しいです。

スポーツ賞の特徴としては大学から始めることの多い競技種目での全国優勝や上位入賞が多いことで、これはスポーツ推薦入学制度のない経済学部でも競技能力が高い学生がいることかと思料します。

4. 経済学部教員対象、ウクライナ情勢勉強会

文学部の卒業生で2025年3月まで在ウクライナ日本大使館参事官兼防衛駐在官でいらつしやいました出口新氏によるウクライナの現状について経済学部の教員の方々とのミーティングを7月18日に開催いたしました。実体験に基づくウクライナの現状についてお話しいただき、先生方からも興味深いお話しだったとの声をいただきました。

5. 就職支援セミナーの実施(法学部・政法会、商学部・樹徳会、理工学部・理工会との合同事業)

第2回目の4学部同窓会合同事業としての就職支援セミナーを6月6日に寒梅館地下会議室で開催いたしました。前回の経験を基に学生が直近の関心事項である「インターンシップに臨むにあたって」という内容で第一部は政法会・長島副会長によるセミナーをいたしました。リアルで即、役立つ内容と学生からの声が高かったです。第二部は数名の学生グループに4回生や若手卒業生といった就職活動ホカホカの方が合流していただきスモールミーティングを実施しました。ぎつくばらんな本音トークが参考になったと感謝の声が聞かれました。

主だった事業は以上ですが、これら以外にも細かな事業や学部の先生方からのご依頼にはお応えしております。「経済学部の学生・先生方のお役に立つ同経会」というスタンスで次年度以降も学部と打合せをして事業を展開していく所存ですので、皆様からの企画提案、「こんなのでみたら？」というお声をお待ちしています。





海外インターンシップ生 からの報告

Report

グローバルな現場で 働くこと

古賀 陽香

〈派遣先〉 Misawa Homes of
Finland

Finland



8月23日から2週間、フィンランドにある Misawa Homes of Finland 様にインターンシップ生として受け入れていただきました。このインターンシップでは、グローバルに働くことへの理解を深め、以前から抱いていた海外と接点をもつて働きたいという漠然とした思いをより明確にすることを目的としていました。

期間中は、製材工場や伐採現場、港など製造から運送に至るまでの一連のプロセスを見学させていただきました。実際の現場で働く方々に直接お話を伺うことで、日本とフィンランドのビジネスや考え方の違いを肌で感じることができました。

また日常生活でも、環境への意識と仕組みの違いや自然との距離感に関して、日本とは異なる価値観に多く出会いました。どうしてフィンランドは環境先進国で世界一幸福な国と言われているのか、自分自身の目で直接見て考えられたことが大きな学びとなりました。

さらに現地スタッフの方々だけでなく、フィンランドで様々な分野で活躍されている日本人にもヒアリングを行いました。海外で働くにあたって直面する様々な困難として、母国語の違いによるコミュニケーションの難しさを挙げられており、これは私自身も実感しました。ヒアリングや日常生活で聞きたいことをうまく英語で伝えられないときや相手の考えを理解しきれない場面に直面するこ



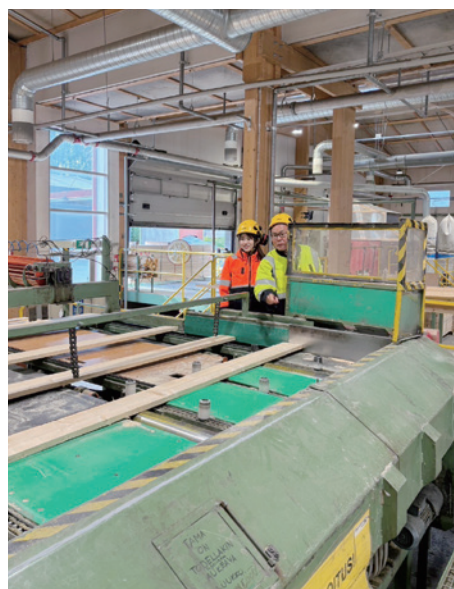
とがあり、英語の重要性を痛感しました。相手の言葉で意見を理解し、自分の考えも英語で伝えられるようになることが必要だと感じ、そのために努力したいと思いました。

一方でそのような困難以上にフィンランドで出会った日本人の方々は海外で働くことにやりがいと充実感を持たれていると感じました。多様なバックグラウンドを持つ仲間と働くことで全く新しい考えに触れ、視野を広げられる点に大きな魅力があると話されており、そのお話を



から私もグローバルな環境で働きたいという思いがより一層強くなりました。

最終日にはインターンシップ期間で学んだことのプレゼンテーションを行いました。駐在員の方々からはプレゼンにおける自分なりの価値の出し方や実際の業務での資料作成の進め方について、様々なアドバイスをいただきました。駐在員の方々の仕事の間近で見させていただき、海外で働くには自ら強い意志と明確な目的意識を持ち、自分なりの価値を生み出すことが求められていると感じました。



滞在させていただいたのは2週間という限られた期間でしたが、会社の内外で非常に貴重な経験をさせていただき、これまでの人生の中で最も刺激的で価値観が変わる時間となりました。フィンランドで事業を展開されている Misawa Homes of Finland 様の取り組みを実際に見て学べたことは、私にとって他に代えがたい経験となりました。漠然としていたグローバルに働きたい



いという思いが実験を通してより明確な目標となり、自分に何が足りないのかを認識することができました。

最後に、このような素晴らしい経験をさせてくださった Misawa Homes of Finland の皆様、同窓会の皆様、学部事務の皆様、心より感謝申し上げます。学ばせていただいたことをもとに常に目標意識を持ち、グローバルな環境で活躍できるよう努力してまいります。

働くことについて

Why Do We Work and
Who Do We Work For?

酒井 遼太

〈派遣先〉ダイキン工業株式会社



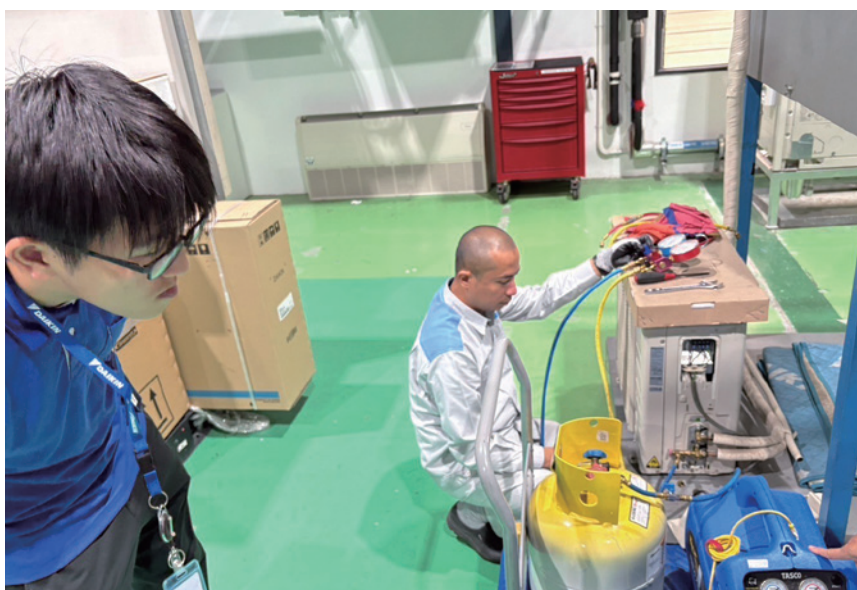
8月17日から31日までの2週間、私はクアラルンプール郊外にあるDaikin Malaysia Sdn. Bhd. (以下、DAMA)に海外インターン生として派遣されました。今回のインターンに応募した理由は、世

界で活躍する日本企業の海外での姿を知りたかったからです。「失われた30年」と呼ばれる長期不況のなかで日本経済を立て直すには、「企業」の存在が重要だと考えました。そのため、日本国外に拠点を持つ企業がどのように現地社会へ貢献しているのかを学びたいと思い、参加を決めました。研修では、DAMAが取り組む冷媒回収事業について学び、日本人駐在員の方々へ日本語でその内容を説明するという課題に取り組みました。

最初に、ダイキン工業の概要やエアコンの仕組み、DAMAの企業構成について学習しました。さらに、営業会社、大型エアコンであるアプライドエアコンを作る会社、電子基板製造会社などグループ企業を訪問し、本社では商品企画やCSR活動についても学びました。最終日には、これまでの学びをもとに冷媒回収事業のプレゼンテーションを行いました。

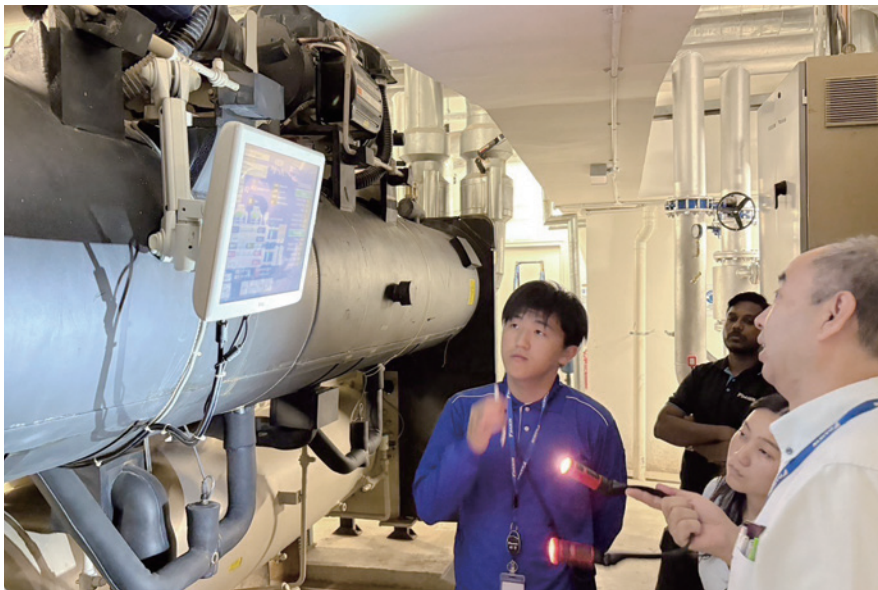
今回のインターンで最も印象に残ったのは、「なぜ働くのか」「誰のために働くのか」という問いに対して、1つの答えを見つけられたことです。営業職から技術職まで幅広い部署で研修をさせていただき、多様な年齢層の社会人の方々とお話する機会を得ました。共通して感じたのは、皆さんが「ダイキン」という企業への誇りと、自分の仕事へのやりがいを持って働いていることでした。

正直、20歳の私はまだ働く意味を完全には理解できていません。しかし、DAMAの社員の方々の姿を通して、「社会に生きる人々のために貢献する」という企業理念を体現する働き方を学び、「社会貢献のために働く」という答えを得ることができました。この経験は、今後の人生において大きな財産になると感じています。



特に、将来のビジョンがまだ明確でない人ほど、このような海外インターンに参加する価値があると思います。海外で働くというよりも、「なぜ働くのか」「誰のために働くのか」を社会人の方々と直接対話しながら考えられる機会は、他ではなかなか得られません。

また、今回の研修では、「常に考えながら行動すること」ということも学びました。未知の環境のなかで、何を学ぶべきか、どの情報をくみ取るべきか悩む場面も多くありました。しかし、自分なりに考え、試行錯誤を繰り返



しながら行動を続けることで、少しずつ答えを見つけることができました。この姿勢こそが、社会に出た後も重要であると強く感じました。

次回のインターン希望者へのアドバイスは、「迷ったら行動すること」です。迷った時こそ、あえて一步を踏み出すことで、思いがけない学びや成長につながると思います。次に参加する後輩の皆さんにも、ぜひ良い経験をしてほしいと願っています。



言語より大事な事

松田 萌愛

〈派遣先〉株式会社鶴見製作所



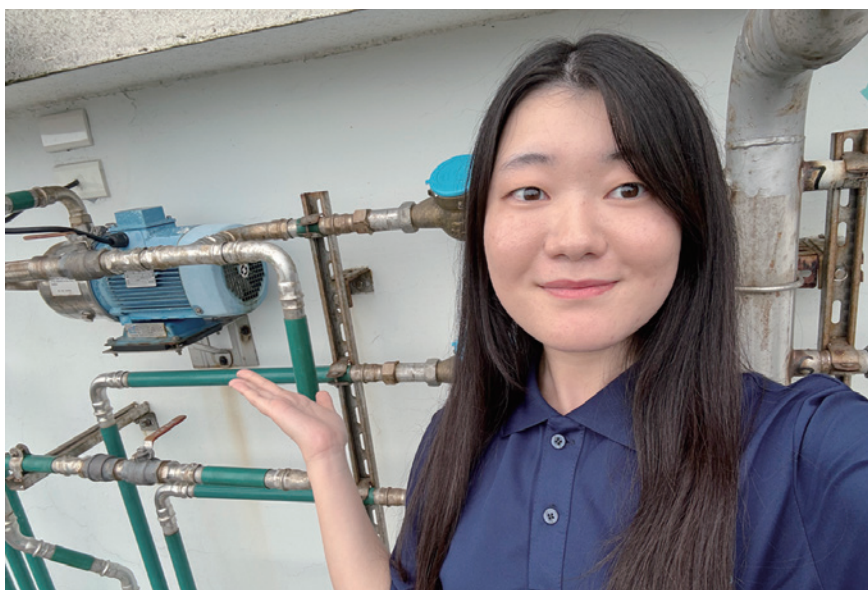
8月24日～9月6日の間、TSURUMI PUMP TAIWAN CO., LTD.でインターンシップに参加しました。株式会社鶴見製作所は水中・陸上ポンプを中心に水関連機器を製造し、その技術と品質は世界的に高く評価されています。

私は参加前までポンプを見たことも触れたこともな

く、生活でどのように使われているのかも知りませんでした。それでも本プログラムを志望した理由は二つあります。一つはメーカーの営業の仕方を学ぶこと、もう一つは海外で働くことのリアルを知ることです。母が水インフラ関連メーカーで働く姿に影響を受け、私もメーカーの役割に関心を抱くようになりました。特に人と人との対話を通じて信頼を築く営業に魅力を感じ、将来はその分野に携わりたいと考えていました。また、海外で働く親の背を見て、言語を活かし挑戦したいという思いもありました。日本での就職活動では将来像と直結する機会に出会えず悩んでいた時に、このインターンシップに巡り会いました。

ポンプは普段意識されませんが、生活の基盤を支えています。台湾では豪雨による浸水被害が多く、非常時に鶴見製作所のポンプが住民の暮らしを守っています。高層マンションや商業施設で自然にお湯が出るのもポンプの働きであり、同社は100年にわたる信頼を積み重ね、台湾市場で日系ポンプメーカー売上1位の地位を確立しています。

現地では営業活動に同行しました。五金屋（雑貨屋・ホームセンター相当）では地元の方々と談笑しながら販売状況を把握し、効率的な製品をPRしていました。建設会社では割高でも高品質かつ「24時間以内に対応」する迅速さが評価され、同社製ポンプが採用されていました。さらに、工場に設置された脱水機も近年シェアを拡大しています。法律改正により工場の汚水処理が厳格化され、省電力・省スペース型の脱水機が無人で稼働し、多くの現場で活躍していました。こうした成果は鶴見独自のカスタマイズ技術の高さに支えられています。



営業部の皆さまは取引開始前から顧客対応を徹底し、楽しそうに働いている姿が印象的でした。サステナブルな社会、暮らしの実現を目指し環境への配慮は勿論、従業員のことも第一に考える姿勢を社長から学び取り、毎朝の面談でとても楽しく将来や夢をお話してきたことが印象的でした。今回、日本・台湾チーム双方から温かいおもてなしを受け、大変多くのことを学ぶことができました。

この経験を通じ、グローバル人材になるためには言語



力だけでは不十分であり、広い視野と柔軟に異文化に溶け込む姿勢が不可欠だと実感しました。相手を尊重し思いやる心、そして前向きに努力を重ねる姿勢こそが重要です。社員や現場の方々がメーカーの仕事に夢中だからこそ、困難にも真摯に取り組めるのだと強く感じました。

私は今回の学びを糧に、大学卒業後も学び続け、深い知識と責任感を備え、明確に意見を主張できる強さを養いたいと考えています。謙虚に全力で取り組む姿勢が、



将来グローバルに活躍するための最大の武器になると確信しました。

最後に、この機会をいただいた鶴見製作所の皆さま、同志社大学同経会、経済学部事務局、そして長澤ゼミの長澤先生に心より感謝申し上げます。今後も挑戦に真摯に向き合い精進してまいります。





アメリカでの挑戦と
成長の2週間
森永千晴
〈派遣先〉株式会社 I T P s t r a t e g i c



1. 参加目的

私の本プログラムの参加目的は二つです。一つ目は、自身の英語力を試すとともに、グローバルに働くという自分の将来の目標を体験することです。

二つ目は、企業の活動を多角的に理解することです。本プログラムでは、営業、会計など幅広い部門の業務を学ぶことができる知り、京都発のグローバル企業が世界で通用する価値をどのように創出しているのかを知りたいと思いました。

2. インタビュの内容

この2週間は、留学や旅行では決して得られない、アメリカのビジネスと暮らしが溶け込んだ非常に濃密な日々でした。

1週目は、各部署へのインタビューを通して、会社の業務プロセスと経営計画を学びました。特に印象的だったのは、「質問することの大切さ」です。専門用語が分からず焦る場面もありましたが、積極的に発言し質問することで、物事の背景や会社の全体像をより深く把握できました。

2週目には、トヨタ、デンソー、トヨタ通商システムズなどの企業を訪問させていただきました。北米のマーケットの特性や、日本の本社と海外拠点の連携の難しさ、駐在員の役割の変化などを学びました。

最終日には、「ITPの課題と提案」というテーマをもとにプレゼンテーションを行いました。インターンシップ生だからこそ提案できる内容にしたいと考え、経営層、働く層の両方の視点を取り入れることを目標とし、社員の方々と業務内外のコミュニケーションを大切にしま



した。発表ではOMの電子化による収益減や少人数体制のリスクに対して営業活動の強化とジョブローテーションの導入を提案しました。

3. 成果と学んだこと

このプログラムに参加して国際社会で働くことの解像度が格段に上がりました。

まず、言語面では、日常の英語コミュニケーションに自信を持たれた一方で、より高度な内容の会議で通用するための一段階上の英語レベルを把握できました。

そして、ビジネス面では、ITPが自社製品を持たず、



クライアントの課題を見越してソリューションを提案する企業姿勢を理解しました。日々の業務を通じて培われる「信頼」や「効率化」、そして「人の魅力」こそが、ITPの提供する価値であると感じました。

また、子育てと仕事を両立しながら異国で生き生きと生活される社員の方々の姿、駐在員の方の具体的な苦勞やキャリアプランを伺うことで、大企業やグローバルな働き方に対する視野が大きく広がりました。

4. 感謝と今後に活かしたいこと

最後に、このような貴重な学びの機会を支えてくださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。

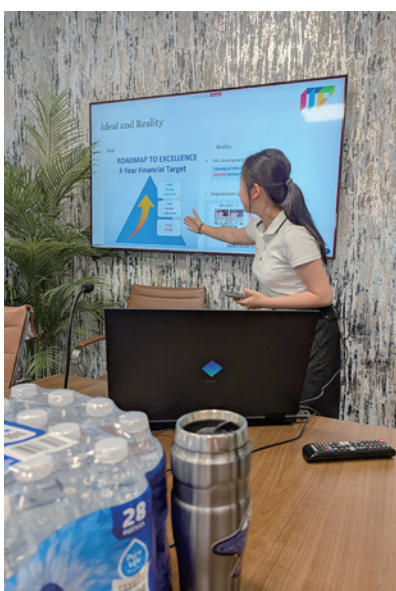
社員の方々は温かい雰囲気です。接していただき、深谷社長は、滞在期間中メールや会話を通じて常に考えるきっかけとなるヒントや助言をくださいました。

この経験を通じて、ビジネスは国境を越えて強く繋がっており、国や文化が違っても誠実に仕事と向き合う姿勢が大切だと知りました。今後はそのような姿勢を大切にしつつ、英語力や異文化コミュニケーション能力を大学の授業などでさらに磨き、今後の大学での研究活動や将来の仕事に活かしていきたいです。

5. 後輩の皆さんへ

このインターンシップは、座学では決して得られない成長の機会です。

分からないことは積極的に質問し、自分の考えを伝え、社員の方々のコミュニケーションを大切にしてください。その積極性が、滞在中の学びを何倍にも深くし、将来のキャリアを考える上でかけがえのない財産となります。応援しています！



同経会賞授与式と 受賞者からの便り

Award



同経会賞は、経済学部専門科目の総合成績が、極めて優秀であった学生上位5名を表彰する制度です。1978年に第1回の授与が行われて以来、今年3月で49回を数える歴史ある賞です。

この間、経済学部の卒業生は約6万名を超え、同経会受賞者は総計330名になりました。今年度もこの同経会賞に加え、学術分野において優秀な成績を残された方にアカデミア賞を、スポーツ分野において優秀な成績を残された方にスポーツ賞を、在学中に貴重な経験とすばらしい功績を残された方に特別賞を授与しました。

卒業式と同じ日に授与式を挙行し、各賞受賞者には賞状と記念品が授与されました。第49回受賞者をご紹介します。

受賞者の皆様、おめでとうございます。今後のご活躍を祈念申し上げます。



2025年度 同経会賞 受賞者（敬称略）

種 類	氏 名	ゼミ・クラブ
同経会賞	原田 稜真	和田 美憲
同経会賞	宮本 海輝	宮崎 耕
同経会賞	岡上 楓果	大野 隆
同経会賞	小野田 詢	新関 三希代
同経会賞	戸田 昂志郎	西岡 幹雄
アカデミア賞	伊藤 碧泉	荒渡 良
アカデミア賞	川崎 うらら	荒渡 良
アカデミア賞	田中 琉樹	荒渡 良
アカデミア賞	東 香怜	茂見 岳志
アカデミア賞	坂田 優芽	新関 三希代
アカデミア賞	中村 優	新関 三希代
アカデミア賞	村井 智哉	新関 三希代
アカデミア賞	原田 結菜	新関 三希代
アカデミア賞	新井 菜摘	新関 三希代
アカデミア賞	市川 清元	迫田 さやか
アカデミア賞	岩井 智哉	迫田 さやか
アカデミア賞	川端 彩日	迫田 さやか
アカデミア賞	増田 萌	迫田 さやか
アカデミア賞	菅沼 津向	迫田 さやか
アカデミア賞	山田 優太	迫田 さやか
アカデミア賞	知原 希	菅 一城
アカデミア賞	藤本 桜江	和田 美憲
アカデミア賞	藤原 なな	和田 美憲
アカデミア賞	小泉 陽奈子	和田 美憲
アカデミア賞	中尾 飛奈太	和田 美憲
アカデミア賞	仁木 脩介	和田 美憲
スポーツ賞	谷山 叶佳	ボードセイリング部
スポーツ賞	家本 美貴	柔道部
スポーツ賞	柳本 征人	ヨット部
スポーツ賞	中谷 勇斗	ソフトボール部
スポーツ賞	塩月 理久	準硬式野球部
スポーツ賞	舟木 一真	カヌー部
スポーツ賞	坂根 波空	カヌー部
スポーツ賞	荒川 諒太	居合道部
スポーツ賞	下園 航太	ゴルフ部
スポーツ賞	豊島 彩月	応援団チアリーダー部
特別賞	山本 新	宮崎 耕
特別賞	ニパード 恵里咲 シラー	宮崎 耕
特別賞	岩下 真大	新関 三希代
特別賞	佐々木 瑠偉	大野 隆

卒業生からの便り

「前途に寄せて」

会社役員 飯田工業薬品株式会社

山梨 俊輔（角井正幸ゼミ）

News

飯田工業薬品K.K.



皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。

私と同志社大学のご縁は、大学進学に際し、父が京都でのキャンパスライフを勧めたことがきっかけでした。学生時代のキャンパスの空気、仲間との時間、京都の街並み、今でもふと心に浮かび、貴重な時間を過ごせたこと、この場を借りて感謝申し上げます。

私事ですが、2008年3月に卒業後、地元、静岡に戻り、仕事を通して、多くの経験を積ませていただきました。社会人としての最初の1年間、エネルギー関連の商社で営業一筋でした。法人向けから個人向けまで幅広いお客様と接し、現場で鍛えられた時間は、今振り返っても自分の土台になっています。数字の重みや、人との関係づくりの難しさと面白さを学んだのもこの時期でした。

現職では、化学品を扱う会社を中心に、いくつかの組織の運営に関わりながら、日々の仕事に向き合っています。会社全体の仕組みづくりや人に関わる仕事を中心に、人や組織が変わっていく瞬間に立ち会えることに、静かなやりがいを感じています。

今までを振り返り、皆さんにお伝えしたいことは「一歩踏み出すことの大切さ、そして感謝の気持ちを忘れないようにする」ということです。

勇気を出して一歩踏み出せば、遠回りに見える道も振り返れば糧になると信じて、前向きに進んでほしいと思います。そして踏み出した後、弱音をこぼしたくなることの連続だった私にとって今があるのは、学生時代の思い出や学び、諸先生方、友人、家族の支えがあったからです。多くの支えに感謝申し上げます。

最後に、皆さんの前途に、多くの出会いと学び、そして幸せが訪れることを願っております。





現役学生が語る 「わがゼミ」

※原稿の提出順に掲載しております。

Seminar report

大野隆ゼミ

小泉 碧

「共に学び、自分と向かい合う」
私たち大野ゼミ16期生(現4回生)は、1年半の大野ゼミで資本主義をテーマに学んできました。ゼミの醍醐味は、論文を書くことを通じた「正解のない問い」への挑戦です。自ら課題を見つけ、問いを立て、先生を納得させる論文を作成する過程で、粘り強く考え続ける知的体力が身につきました。また、ゼミの課外活動として計10

日間及ぶ以下の多様な企画に取り組み、学びを深めました。

- ・大丸京都店でのフィールドワーク(2日)
- ・立命館大学・大野敦ゼミとの合同ワーク(2日)
- ・琵琶湖での合宿(2日)
- ・自己理解ワークショップ
- ・(インプット編・アウトプット編)(3日)
- ・五大学合同論文発表(1日)

これらの活動を通じて、話の筋道を立てて相手に説明する力が培われました。この力は、就職活動の面接でも大きな強みとなっています。

卒業までの残りの期間は、ゼミ活動の集大成である卒業論文の執筆に全力を注ぎます。



西岡 幹雄ゼミ

岡田 啓吾

私たちは、西岡幹雄先生のご指導のもと、「地域の潜在価値の発見と新たなインフラの展開」コロナ後の地政学リスクをふまえた地域・都市のあり方と世界の変容」をテーマに、プロジェクト研究を行っています。現在は、熱海・広島・出雲・中之島に焦点を当て、観光産業・自動車産業・文化的資源・都市設計など、幅広い視点から地域の潜在価値を探究しています。

今年も昨年に引き続き南山大学、大阪経済大学との交流フォーラムを実施し、研究報告を行いました。学生同士での活発な議論や、先生方から頂いたフィードバックを通して、研究に磨きをかける有意義な機会となりました。

また、名だたる企業様にご協力頂き、学びを深めた年になりました。株式会社パソナグループ様のご協力のもと、淡路島における地方創生ツアーを体験し、人材誘致による地方創生事業を学びました。さらに、マツダ株式会社様ご協力のもと、菖蒲田清孝会長によるご講演を賜り、これからの自動車産業や内燃機関の動向、地域産業構造の多様化への理解を深めました。



和田 喜彦 ゼミ

鹿子木 紗也

エコロジー経済学を専門とする我がゼミを一言で表すなら、「自由闊達」です。ゼミ生自らが研究テーマを提案し合い、環境や社会への影響を実践的に研究することで、経済成長と環境配慮の両立を当たり前のものとすることを目指しています。

2025年度の2回生は、プラスチックを使わない社会の実現やフェアトレード、平飼卵の普及、サーキュラーエコノミーの推進など幅広いテーマに取り組みました。3回生は、行政と連携した電池回収プロジェクトや、生協コンビニでのリユース・リサイクル弁当箱回収、コーヒীগラウンズの大学内活用、オリジナルマイボトル販売によるペットボトル削減など、社会と関わる研究を行いました。

研究は一年を通じて進められ、三学年合同合宿や六大学合同ゼミ合宿で発表を重ねました。4回生は個人で卒業研究に取り組み、年度末に卒論発表会を実施します。

末筆ながら、ゼミ生一同、卒業生のご活躍をお祈り申し上げます。これからの日々々の活動に全力で取り組んで参ります。



荒渡 良 ゼミ

鶴田 重太郎

人付き合いにおいて、「遮らない」ということは案外難しいです。人付き合いをしていれば誰でも一度や二度は、相手の話を遮って物申したいことがあるでしょう。それは荒渡ゼミの活動とて例外ではありませんでした。グループ研究、ISFJ、日経ストック…、あらゆる活動で人と人の意見がぶつかりそうになるのを目にしてきました。しかし、誰一人として対立した意見を遮りませんでした。みな対立を乗り越えた先にある「より善いカタチ」を目指していたのです。

理由がどうであれ、みな「より善いカタチ」を目指すその姿勢に私は驚きました。驚いたと同時に、私は荒渡ゼミの一員であることを誇りに思っています。3回生としての活動も終わりに差し掛かり、2回生のグループ活動も佳境を迎えています。縦の繋がりは未だ満足に出来ているとは言えないかもしれませんが、

しかし、あらゆることを「遮らない」私たちがらきつと繋がることのできるでしょう。ゼミ長として無責任かもしれませんが、私にこう思う「わがゼミ」は「誇り」です。



横井 和彦 ゼミ

川端 夕暉

私たち横井ゼミは、中国経済をテーマに学ぶゼミです。一言で表すなら、多様な価値観の中で議論を深められるゼミだと思えます。ゼミには体育会に所属する学生や留学生など、さまざまな背景を持つメンバーが在籍しており、毎回のゼミでは活発な意見交換が行われています。

2年次演習では文献を読み込み、中国経済の基礎を学びました。3年次演習では、対中ビジネスを想定したバーチャルカンパニーを企画し、名城大学との合同ゼミで発表を行いました。市場や制度、文化的背景を踏まえて事業計画を考える中で、実践的な思考力を身につけることができました。

また、横井先生は学生一人一人を大切にしてください先生です。私はアメフト部に所属していましたが、学年を越えて部員が集まる会を開いてくださるなど、ゼミ外でも交流の機会を設けてくださいました。学年を超えたつながりを大切にする横井ゼミでの学びは、今後も大切にしていきたい経験です。



菅一城ゼミ

西久保 陽奈

菅一城ゼミでは、経済学の理論を基礎に、現実社会で起きている多様な経済・社会問題を自らの問いとして捉え、分析する力を養っています。ゼミではまず、各自が関心を持ったテーマを設定し、先行研究の整理や統計データの分析を通じて研究を進めていきます。観光、労働、福祉など扱う分野は幅広く、学生一人ひとりの問題意識が研究の出発点となっている点の特徴です。

ゼミでは発表の機会が多く設けられており、報告後には活発な質疑応答や意見交換が行われます。議論では結論そのものだけでなく、そこに至る思考の過程や前提の妥当性が問われ、自身の考えを何度も見直すこととなります。その過程を通じて、自分の研究を分かりやすく説明する力に加え、他者の視点を取り入れながら論理を再構築する力が培われていきます。

また、菅先生からは研究内容に対する的確な助言だけでなく、目の前の結果にとらわれず、歴史的背景や制度の成り立ち、長期的な視点から物事を捉える重要性についてご指導いただいています。ゼミ活動を通じて、経済学的思考力はもちろん、自ら課題を発見し、安易な答えに流されず粘り強く考え続ける主体性が培われていると感じています。



法雲 俊栄ゼミ

石本 さゆり

私たちのゼミでは、「経済×ICT」をテーマに探究を行い、その成果を地域貢献へとつなげる実践的な活動に取り組んでいます。今年度は、ゼミのHPやEVE祭で使用する予約システムの開発に加え、プログラミング教室や夏休みの自由研究支援で活用するアプリの開発にも挑戦しました。

企画から開発までの過程では、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを重ね、常に利用者目線を意識しながら改善を行いました。

また、デジタル社会における「数学&音楽」をテーマとした子ども向けプログラミング教育イベントを開催し、教材作成から当日の運営までをゼミ全員で分担しました。

さらに、中小・地域企業の若手後継者が集う「アトツギ縁日」では、企業ブース運営の支援を行い、地域と企業をつなぐ役割を担いました。加えて、海外研修としてカリフォルニアを訪問し、AI・ICTの活用事例を調査しました。地域活動と海外での学びを通じ、経済やICTが社会で果たす役割を実感しています。



岩澤 政宗ゼミ

江 潤 司

岩澤ゼミは2023年度に開講したゼミで、計量経済学を学んでいます。データ分析を扱うゼミは数多く存在しますが、本ゼミでは特に理論学習に力を入れています。実証と理論の2つのコースを開設し、経済データ分析に使われる手法である計量経済学の理論を学んでいます。

計量経済学は統計学が基本となっているため、まずはその基礎となる統計学のテキストを輪読する形式で進めています。3学年合計5名の少人数ゼミではありますが、他ゼミの学生4名も加えて計9名で共に学びを深めています。開講3年目で縦のつながりが生まれてきた影響もあり、昨年苦戦していたところを、上級生が積極的に後輩へ伝えようとする姿勢が見られるようになりました。

また本ゼミでは、一つの目標として統計検定の合格を定めている学生も多いです。実際に今年の5月には、統計検定準1級に合格した3回生もいます。新しく入ってきた2回生も同様に自主的に目標を定めて学びに励んでいます。



角井 正幸 ゼミ

四田 紗椰

角井ゼミでは、「アメリカにおける経済問題の実証分析」をテーマに研究活動を行っています。2回生秋には、統計やデータ分析の基礎を学び、数値や客観的なデータを用いて経済現象を多角的に考察する力を身につけます。

3回生春には、『ガルブレイス』や『21世紀の資本』といった文献を読み進め、理論的背景を理解しながら、格差問題や貧困などアメリカ経済の多様な側面について学習していきます。

3回生秋からは卒業論文の作成に向け、論文の構成や基本的なルールを学び、各自のテーマに沿って調査・執筆を進めていきます。3回生秋までの活動ではグループワークや発表の機会が多く、議論を通じてアメリカ経済への理解を深めるとともに、相手に分かりやすく伝えるプレゼンテーション能力も養うことができます。

また、ゼミ生同士で食事に行くこともあり、親睦を深めています。今後もゼミ活動に力を入れ、研究内容の充実を図って参ります。



和田 美憲 ゼミ

新海 いろは

私たちは、和田美憲先生の指導のもと、行動経済学をテーマに人が必ずしも合理的ではない判断や行動をとる理由について、心理学と経済学の視点から学んでいます。2回生では、行動経済学の基礎理論を、身近な具体例を多く取り上げた書籍をもとに学習し、グループに分かれプレゼンテーションを行いました。

日常生活における買い物行動や意思決定、選択の偏りなどを題材に、「なぜ人はそのような行動をとるのか」を考察することで、理論への理解を深めました。また、統計学についても学習し、理論をデータで検証するための考え方を身につけました。

和田先生は授業内でのコミュニケーションを大切にされ、身近な経験と結びつけながら、分かりやすく楽しい授業を行っています。2025年最後の授業ではクリスマスパーティーを開催

し、ゼミ生や先生との交流を深めました。私たちは仲間とのつながりを大切に、「自分たちの理論を見つける」ことを目標に、今後も学びを深めていきます。



大谷 実 ゼミ

廣瀬 幸汰

2回生の廣瀬です。私たちは、ヨーロッパの近代化の歴史を学び、歴史を通じて社会や経済について考えています。昨年度スタートした新しいゼミで、2回生が4名（うち聴講1名）、3回生が3名（うち聴講1名）います。普段は、本を輪読しつつ、発表と議論をトレーニングしています。2回生は、岩波新書の『ヒトラー』を使い、ナチ時代に

ついて学んでいます。輪読のほか、フィールドワークも実施しています。2回生は、日本と海外のつながりについての歴史研究を目的として、奈良を訪れました。天平文化を感じられる貴重な品々を展示する正倉院展では、奈良時代の聖武天皇の宝物だけでなく、シルクロードを通じて日本にもたらされた輸入品も鑑賞できました。また、外国使節の送迎などを行った朱雀門を訪れ、当時の人々が歩いた道を実際に歩き、時を越えて海外とのつながりを感じられるフィールドワークとなりました。お昼に食べた「彩華ラーメン」もおいしい思い出です。



原田 禎夫 ゼミ

宮崎 葵

原田ゼミでは、「プラスチック汚染からの脱却を目指す実践型地域研究」をテーマに、近年世界的に関心が高まっているプラスチックごみ問題について研究しています。川や海に流れ着いたペットボトルの回収や清掃活動を行い、プラスチックが環境に与える悪影響を肌で感じてきました。

今年度のEVEでは、新たな取組として地球にやさしい豚汁を提供する模擬店を出店し、その取組を紹介する

展示も行いました。先生からのアドバイスを基に、亀岡市で農業を学ぶみなさんが生産された有機野菜や、廃棄食品を飼料として育てられた豚肉を使用しました。環境にやさしい暮らしが、世の中の「当たり前」になってほしいという思いの下、環境経済学を専攻している私たちだからこそ提供できる企画を通して、環境保護のハードルを下げ、無意識のうちに廃棄物を減らせる社会を目指します。

その他にも、ディベート大会やボランティア、合宿、万博での出展等、原田ゼミでしか体験できない貴重な経験を重ねています。今後もゼミ活動を通して得た学びを、各自が日常生活に活かす工夫を考えていきます。



四谷 晃一 ゼミ

坪崎 健太

我ら四谷ゼミでは、教育の経済学をテーマに、教育と社会・経済との関係について多角的に学んでいます。輪読や学生による発表を通じて理論的理解を深めるだけでなく、実社会と結びついた実践的な学びの機会も豊富です。特に今年度は、日本航空株式会社協力のビジネスアイデアコンテストにおいて、ゼミから参加した4チームのうち1チームが本選出場を果たし、念願の成果を挙げることができました。

また、ディベート大会を通じて論理的思考力を鍛えるとともに、関西学院大学との合同ゼミなど学外との交流も積極的に行っています。四谷先生は、すぐに答えを示すのではなく、学生が自ら考えるための「種」を与えてくださる指導が印象的で、一人ひとりに多くの気づきと成長の機会を提供してくれます。

活発で挑戦的な雰囲気の中、主体性を養いながら、今しかできない学びと経験を積むことができます。ゼミです。ゼミ生同士の結束も強く、互いに刺激を受けながら切磋琢磨できる環境が整っている点も、本ゼミの大きな魅力だと感じています。



長澤 勢理香 ゼミ

中嶋 さくら

長澤ゼミは、2回生21人、3回生22人、4回生18人で活動しています。研究テーマは自由で、各自の関心を起点に社会や経済の課題を掘り下げていきます。フィールドワークを重視し、議論を通じて考えを深める実践的な研究に取り組んでいます。

今年度のインターゼミは、4つのゼミが集まり鳥取環境大学で開催されました。私たち3回生は、「無人店舗

化の現状と将来性」韓国事例を中心に、「タイの大麻産業を参考にした日本国内の地域経済活性化」「姫路市・神姫バスを事例とした黒字化への提言」の3テーマで発表しました。事前に現地調査や資料分析を行い、チームで議論を重ねながら内容を磨き上げました。その結果、長澤ゼミの3チームすべてが1位から3位を独占しました。発表後は報告書作成にも取り組み、研究の過程や課題を言語化する力も養いました。

こうした活動を通じて、他者の意見を汲み取りながら自分の考えを伝えるコミュニケーション能力と、課題を筋道立てて考える論理的思考力を身につけています。



小林 千春ゼミ

岡 優成

小林ゼミでは、ビジネスアイデア大会やディベート大会への出場、他ゼミとの合同論文発表会など、様々な活動にチームで挑戦を続けています。

2年次演習ではキャンパスベンチャーグランプリ大阪に出場し、3年連続でファイナル審査会に進出することができました。また、Moody's社のデータベースOsirisからデータを取得し、国際比較や統計ソフトを用いた回帰分析にも取り組んでいます。

3年次演習では、経済学部ビジネスアイデア大会で5年連続優勝、ディベート大会では10連覇を果たしました。そして、今までの活動を通じて養った論理的思考力や課題設定能力を基盤に、他ゼミとの論文報告会や卒業研究に取り組んでいます。

このように多岐にわたる活動に参加できる機会をゼミ分にとつて、特にプレゼン力やコミュニケーション能力を養うことができ、大きな成長に繋がりました。今後は、ゼミ活動で得た経験を糧に、卒業研究やSAとしてのサポートに積極的に取り組んでいきたいと考えております。



三俣 学ゼミ

今村 貴翔

同志社大学三俣ゼミは2回生16名・3回生16名・4回生15名の計47名で活動してきました。当ゼミでは、資源、環境をテーマに、三俣先生の著書『森の経済学』『自然アクセス』を手掛かりとしながら、座学とフィールドワークの双方を通じて学びを深めています。当時から現在も変わらず、研究の楽しさを知ることが大切にご指導のもと、学生一人ひとりが主体的に問いを立てる姿勢を育んでいます。

フィールドワークでは、京都御苑や大文字山、京都府立植物園など大学近隣の自然に直接触れ、観察を通じて実践的な学びを行いました。2・3回生は六大学合同ゼミに向けたグループ研究に取り組み、4回生はこれまでの学びを元に試行錯誤を繰り返し、卒業論文執筆に向けて個人研究に取り組みました。また今年度は、3・4回生合同のゼミ合宿の実施や、2・3回生と三俣先生を交えた食事を開催するなど、学年間の縦のつながりを重視した一年となりました。



新関 三希代ゼミ

小川 大智

私たちは、新関三希代教授のご指導のもと、日銀グランプリ、資産形成学生論文アワード、そして日経ストックリーグの3つの論文大会に出場いたしました。本年度も昨年度に引き続き、新関三希代教授や先輩方をはじめ、OB・OGの皆様や学外の方々のご協力をいただき、大変充実したゼミ生活を送ることができました。

特に、日銀グランプリでは「日本銀行が物価上昇率2%を実現するための政策提言」を行い、昨年度に引き続き奨励賞をいただくことができました。また、日経ストックリーグでは2022年度には史上初の最優秀賞を、昨年度は1チームが敢闘賞を受賞いたしました。今年度も青山学院大学とインターゼミナールを実施するなど、約4ヶ月間わたり論文を執筆いたしました。

今後も、ゼミを支えてくださるOB・OGの皆様、そして新関三希代教授への感謝を忘れずに全力でゼミ活動に取り組んで参ります。



小藤 弘樹 ゼミ

田淵 光琴

小藤ゼミでは主に地域経済や都市経済の分野を学習しています。専門分野に関わらず自分が疑問に思ったこと、興味を持ったことに関して自由にテーマを設定し研究を行うことができます。意欲的にゼミに取り組みることができています。ゼミ生や教授に気軽にアドバイスをもらえることや、お互いの研究をサポートし合えることができる環境が整っていると感じています。

また、1年に1度、法政大学経営学部の福島ゼミの皆さんと合同ゼミを行い、お互いに研究の成果を発表し、意見交流をする機会があります。同志社からは「地域資源と地域経済の活性化 箱根温泉と草津温泉の比較分析」、「ベトナムにおける職業選択と就労をめぐる環境整備」という2つのテーマにそれぞれ取り組み、発表を行いました。

発表に対して経済学とは異なる視点からの意見を得られることや、経営学の発表を聞くことで、普段とは異なる経験をする事ができたと感じています。このように何事にも主体的に取り組みるところが小藤ゼミの特徴です。



笠井 高人 ゼミ

平岡 美樹彦

私たち笠井ゼミは4回生1名、3回生1名と少人数であります。が、聴講生や大学院生の方々と交えながら経済思想史について活発な議論を行うゼミです。

本ゼミで主に取り上げる経済思想史については歴史的な事象に限定された学問領域と捉える方が多いのではないかと思います。確かに経済学における理論がどのような社会の要請によつて育まれたかについて理解するためには歴史的な背景知識が必須になるでしょう。

一方で経済学は人々の行動をより深く理解していく過程によつても発展してきた側面があり、哲学・心理学といった人文科学への積極的な関心も重要な役割を果たすと言えます。また、現代の経済事象を支えている数理学が、どのような性質を持っているのかについて冷静な整理が出来なければ今日の経済学を俯瞰することすらおぼつかないでしょう。

以上のように経済思想史を学ぶことは、経済学のみならず人文科学・自然科学が織りなす広大な学問領域を鳥瞰することと同義であります。この事を念頭に置きつつ、今日もまた私たち笠井ゼミは経済学の本質を追求する議論を行っていきます。



高井 才明 ゼミ

高橋 龍人

高井ゼミでは「情報システム」をテーマに、学年ごとに実践的な学習に取り組んでいます。2回生はHTMLやCSSなどのWeb技術を学習しつつDXやAI等の最新のトレンドを調査・発表し、プレゼンスキルを養っています。3回生はゲームや実用アプリの開発を通してWebアプリケーションの企画・開発に挑戦しています。

4回生は、各自で卒業研究のテーマを設定して卒業論文の執筆を行っています。また、毎学期末に全学年が集まり、これらの成果をお互いに発表する最終報告会を今年も開催しました。お互いの制作物を評価し合い、学生間で切磋琢磨していきます。

例年実施している海外フィールドワークでは、情報系のゼミ合同で北米へ渡り、サンフランシスコ・シリコンバレーでフィールドワークを行いました。その他、有志でのダイベイト大会への出場やイベントの企画など積極的なゼミ運営も特徴です。今後もゼミ生同士の学習と親睦の両面を大切にして活動を続けていきます。



宮崎 耕ゼミ

山崎 桃子

今年は29期生32名を迎え、86名で活動しています。2回生は「それで普通ですか?」と「正しいウェブサイトのつくり方」の2つの課題に、3回生はアプリの国際コンテスト「公共交通オープンデータチャレンジ2025」に取り組み、4回生はAIや次世代社会などのテーマで卒業研究を執筆しています。

ゼミでは今年も「枝見」や「ハロウィンの仮装ゼミ」などの恒例行事を楽しんでいます。EVEでは、ゼミ伝統の「プリクラ」に加え、ゼミ生がディレクターを務める「ポーカー」を企画し、大盛況となりました。

夏合宿では、サンフランシスコとシリコンバレーを訪れました。スタンフォード大学の訪問や自動運転タクシーへの乗車など、ICTのメッカならではの非常に刺激的な体験をすることができました。

秋には良心会(OB・OG会)による創設30周年記念イベントが開かれ、講演会やパーティ、特別ゼミで先輩方のお話を直接伺う貴重な機会をいただきました。良心会は今後も毎年春と秋に開催予定ですので、是非ご参加ください。



竹廣 良司ゼミ

菅原 怜

竹廣ゼミでは、企業の組織や戦略を経済学の視点で捉え、産業組織論や企業行動の分析をベースに、事例検討とデイスカッションを重ねています。各自が関心テーマを設定し、私たちはSASを用いたデータ処理や推定などの実証分析に取り組みました。

2回生はディベート大会にも挑戦し、資料収集から立論・反論まで練習しています。3回生は先行研究の読み込みと仮説設定を丁寧に行い、推定結果の解釈などをグループで議論しました。その甲斐もあり、半年かけて準備した小林ゼミ・迫田ゼミとの合同論文発表会では1位と2位を獲得し、大きな自信になりました。この経験を活かし、卒業論文をより良いものにしていきたいと考えています。

また、経済学部の支援を受け、就活生応援メディアの運営や、ガクチカを作りたい学生を応援するプロジェクトにも参加しました。さまざまな困難もありましたが、学生一同が力を合わせ、無事に乗り越えることができました。

これまでの学びと発表経験を踏まえ、分析手法の選択や解釈の精度をさらに高め、根拠に基づく説得的な卒業論文を仕上げていきます。



奥田 以在ゼミ

遠藤 弥空

奥田ゼミでは京都の職人や老舗を対象に研究を行っています。12期生は「ネクタイ」「清水焼」「京漬物」「京町家」の4班に分かれ、実際に現場へ足を運ぶことで資料にはない職人のこだわりや産業の実状に迫っています。

研究以外では、2回生への説明会や、合同ゼミ班・EVE班でプロジェクト活動に取り組みます。合同ゼミ班は交流の企画運営を担い、3学年が集まつの体育館でのレクリエーションや懇親会、現役生とOB・OGの皆様とのBBQを実施しました。これらの活動は学年の垣根を超える貴重な交流の場となっています。さらに、12期生でゼミ合宿も行き、共に学ぶ仲間との絆を深めました。

代々受け継がれているEVE班の出演では、「芋煮」を販売しました。八百屋や精肉店から直接仕入れた厳選食材、老舗の醤油を使い、試作を重ねるなど、納得の味と黒字化の両立を追求しました。全員で一丸となって取り組んだ経験はゼミの大きな財産です。

ご指導して下さる奥田先生や調査先、先輩方への感謝を忘れず、ゼミの情熱を次代へ繋いで参ります。



北坂 真一 ゼミ

南 俊輔

こんにちは。北坂ゼミ2年次生の南俊輔です。現在、北坂ゼミでは「地域データ分析」をメインテーマに活動しています。それぞれ自分が興味を持つ市や県を選び、人口や産業構造、雇用、売上高などといった統計データをもとに、グラフ作成や回帰分析に挑戦しています。

「この市は意外と製造業が強い」「この県はサービス業が伸びている」といった発見を共有することで、地域の個性がデータを通して鮮明に見えてくるのでとても面白いです。数字から社会を読み解く難しさに頭を悩ませることもありますが、ゼミ内での議論を通じて自分たちの視野が広がっていくのを実感しています。

ゼミ生が6名と少人数なこともあり、発表や質問の機会が多いことが私たちの特徴で、お互いの分析に対して意見や疑問点を投げ合うなどの意見交換が行われています。また、先生が一人一人の進捗に合わせ親身に指導してくださり、初心者でも着実にスキルを身につけることができます。今後も北坂ゼミの強みを活かして各自のテーマを深めていけるように励んでいます。



小橋 晶 ゼミ

平野 晃生

小橋晶先生のもと、応用ミクロ経済学を専門に学ぶゼミです。2回生ではゲーム理論を中心に、経済学の基礎的な考え方や分析手法を座学で学びます。理論を通じて、企業や個人がどのような意思決定を行うのかを論理的に考える力を養います。

3回生では、主に二つの活動に取り組んでいます。一つ目は、2回生に対してゲーム理論を教える取り組みで、教える立場に立つことで理解をより深めるとともに、伝える力をつけています。二つ目は、産学連携による商品開発や広報活動で、企業と協力しながら実践的な課題に取り組んでいます。

本ゼミは学生主体で運営されており、やりたいことに積極的に挑戦できる環境が整っています。過去には、ゼミ生が主体となって教科書を作成したり、ディベート大会に出場したりした学年もありました。理論と実践の両面から経済学を学べる点が本ゼミの大きな特徴です。



久保 徳次郎 ゼミ

國井 康平

私が所属している久保徳次郎先生のゼミは少人数ではありますが、他のゼミよりも一人一人に寄り添ったゼミ活動を行ってくださっていると感じています。例えば、他の大人数ゼミではできないようなパソコンを使った分析などを複数回の授業に渡って、生徒の質問に答え、解説しながら行っています。

また、久保徳次郎先生が開講しているプログラミングの授業内容とゼミの内容を関連させて学んでいるので、ある経済事象についてプログラミングを用いて計算や分析を行い、経済学を複合的に深く、さまざまな視点から学んでいます。

そして、私のゼミは経済学の理論と現実世界との乖離を学び、これまで学んできたものをどのように実生活の中で活かし、自らの糧にするかについても学んでおり、常に私たちゼミ生のこれからのとってより役に立つように久保徳次郎先生は尽力されています。

私はまだ2回生なので引き続き久保先生のゼミで多種多様なことを学び、より高みを目指していきたいと考えています。



古賀 康士 ゼミ

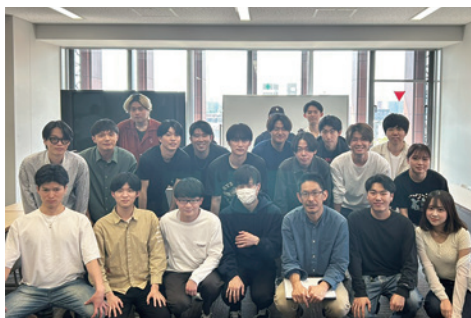
津田 啓介

古賀ゼミは、日本経済史をテーマに過去の経済活動や社会構造の変化を丁寧に分析し、現代の日本経済を深く理解することを目的としたゼミです。本ゼミの大きな特徴は、学生一人ひとりの関心や問題意識を尊重する自由な風土にあります。

1回生では、歴史学の基礎として、文献の読み方や史料の扱い方、先行研究を踏まえた学術的な考え方を学びます。単なる知識の暗記ではなく、史実をどのように解釈し、論理的に説明するかを重視しています。

2回生では、学生同士でチームを組み、各自の興味関心に基づいたテーマを自由に設定し研究を行います。テーマ設定や研究手法の裁量が大きく、チームによっては同志社大学の学生プロジェクトとして研究を進めることも可能です。

3回生では、これまでに培った知識と研究経験をもとに、自由にテーマ設定を行い卒業論文を執筆します。主体的な探究を通じて、社会を歴史的視点から捉える力を養えるゼミとなっています。



八木 匡 ゼミ

濱田 芽夏

わがゼミは、どんな経済学の分野でも議論していただける全方向最強甲冑を身に纏った八木先生を囲み、総勢40名で構成されています。

あまりふざけた文で書く先生から苦笑いをいただくので1文で止めておきます。しかしふざけた、とは言ったものの、どんな経済学の分野でも議論していただけるのは事実であり、ゼミ内での研究は多種多様な分野が入り交じる、総合的な経済学の学びの場となっています。

私たちは研究分野ごとにグループ分けをし、研究内容は自分たちで決定します。決め方によっては、実質的に個人研究を行うこともできます。1年間、定期的に八木先生とみっちり議論をし、研究を進めていきます。

先日終了した期末報告会では、各々の方法で分析した公共経済、企業経済、文化経済、地域経済等々の研究報告をしました。専門性を伸ばしていくゼミ活動において、八木ゼミは自分の専門以外の経済学を知ることができるとも稀有な空間となっています。



茂見 岳志 ゼミ

清水 智矢

私たち茂見ゼミでは、メカニズムデザインをテーマに、テキストや論文の輪読を通じて理論的理解を深めます。各自が担当箇所を発表し、活発な議論を重ねることで、制度設計や意思決定の仕組みを多角的に考察しています。ゼミのメンバーは自由奔放な人が多く、時には先生から喝が入ることもありますが、ビジネスアイデアコンテストやデイベート大会といった大会では一丸となってチームワークを発揮し、予選を勝ち抜いて決勝へ進出しました。

また、前年からゼミ合宿を実施しました。掲載している写真はゼミ合宿の集合写真です！茂見先生やゼミ生同士の交流を深めることで、学びとプライベートの両面で充実したゼミ活動を行っています。



佐藤 敦紘 ゼミ

平岡 琉陽

設立3年目の佐藤ゼミは「実験を通じたゲーム理論の習得」をテーマに活動しています。戦略的な意思決定を分析するゲーム理論を座学で終えず、実験を通じて理論と現実の差異を考察することで、より実践的な理解を深めています。

各年次の活動として、2年次は戦略型ゲームについて先行研究や行動経済学の視点を取り入れ、グループワークを通じて探究を深めました。3年次

は、春学期に展開型ゲームを扱い、秋学期には各自で設定したテーマに基づき研究成果の報告を行いました。そして4年次は、これまでの1年半の学びと経験を活かし、多角的な視点から集大成となる卒業論文の作成に励んでいます。

また、学生プロジェクトへの挑戦や、B・B・Q、各期合宿、合同合宿などのイベントも充実しており、年次を超えて交流できる活気ある雰囲気も魅力です。歴史が浅いからこそ、学生が主体となつて仲間と切磋琢磨し、共にゼミを創り上げていける環境にあります。今後もゼミ生一同、互いに刺激し合いながら全力で活動に取り組んでいきます。



谷村 智輝 ゼミ

津田 清一郎

こんにちは。谷村ゼミ3回生の津田清一郎です。

谷村ゼミでは、政治経済学を軸に、グローバル資本主義と日本経済の長期停滞の要因について考察しています。2〜3回生にかけては、教科書の輪読やグループでの発表と議論を毎週重ねてきました。

授業は一方的な講義形式ではなく、聞く側も主体的に発言する機会が設けられており、能動的に学ぶ姿勢が重視されています。その中で、自身の考えを論理的に説明する力や、見過ごされがちな疑問点に向き合い、本質を探ろうとする姿勢が養われていると感じています。4回生からは卒業論文の執筆が本格化し、これまでの学びを各自の関心に即して発展させていきます。

また、授業外では運動会、O・B・O・G会の企画にも取り組み、学年や世代を超えた学びを得ています。谷村先生は一見とても厳しく見えますが、誰よりも学生一人ひとりを気にかけてくださる方です。谷村ゼミは、そんな先生の人柄を反映した、真剣さと温かさが両立したゼミです。



李 翔宇 ゼミ

武藤 元一

私たち李ゼミでは、12月に開催される同志社大学経済学部主催のデイベート大会に向けて、試合形式のデイベート練習に取り組みました。実践を想定し、立論から反論、質疑応答までを通して行うことで、論点整理の速さや根拠の示し方を磨きました。また、練習後には振り返りの時間を設け、良かった点と改善点を共有し、次回に向けた課題を具体化しました。さらに、ピザパーティーなどの交流の場も設け、メンバー同士の親交を深めました。活動を通じて、主張と根拠を論理に基づいて述べる力、相手の主張の矛盾を的確に指摘する批判的思考力、そしてそれらを伝えるコミュニケーション力の向上につながりました。



東 良彰ゼミ

曾波 拓斗

2025年度の東ゼミには、全学年合わせて67名が所属しています。本ゼミではリベラル・アーツの精神に基づき、経済学の枠にとどまらず、学生それぞれが関心を持つ多様な分野について、先生と学生が活発に議論を行っています。目まぐるしく変化する社会に対応し、将来さまざまな分野で活躍できるように、幅広い教養を身につけることを目的としています。

また、2回生から4回生までのゼミ生が同じ曜日に集まり、学年の垣根を越えて学問や就職活動について意見交換を行っています。さらに、先生との距離が近く、自由に意見を交わすことができる点も、東ゼミの大きな魅力です。

飲み会やゼミ合宿などの場では、勉強や将来の夢、時には恋愛の悩みに至るまで、さまざまなテーマについて学生が相談し、先生も常に親身になって話を聞いてくださいます。学びと人とのつながりの両方を大切にする、アットホームな雰囲気の中、東ゼミです。



山森 亮ゼミ

清水 澄晴

3回生の春学期は、『なぜ脱成長なのか』や『ネイバーフッドデザイン』、『モモ』、『フェミニスト・シティ』など多岐にわたる文献を読み、議論を通じて互いの知見を深めました。

秋学期は関心分野ごとに3つのグループに分かれ、フィールドワークを通じて、グループ研究を行いました。「地域創生」班は京都の祭りに参加、「子育て」班はNPOや大学内学童での支援、「サーキュラーエコノミー」班は徳島県上勝町等の循環型社会をテーマに、各班で研究報告をまとめました。

2回生ゼミでは例年通り『ドーナツ経済学』を輪読し、仕事と育児の両立をテーマに子育て家庭への訪問を実施しました。

4回生ではこれまでのグループ研究などの経験を基に、各々が独自の視点で卒業論文の執筆に取り組んでいます。座学とフィールドワークを組み合わせ、研究することを大切にしています。



迫田 さやかゼミ

小原 和也

私たち迫田さやかゼミは、なぜか女性の方がほんの少しだけ強い。あくまでほんの少しだ。尻に敷かれているわけでは決していない。そんな絶妙な力関係の中でも、私たちは驚くほど協力し合って研究に取り組んできた。

日本学生政策提言会への挑戦では、思うように進まない時こそ互いに歩み寄り、議論を重ね、チームとして確実に成長することができた。支えてくださる大人の方々にも恵まれ、社会とのつながりを実感しながら活動することができるのも、このゼミならではの魅力だ。

そして何より、迫田先生のご存在が大きい。研究の指導はもちろん、就職活動まで親身になって寄り添ってくださり、私たちの将来を本気で考えてくれる。

多くの人と関わり、学び合い、時に笑い合いながら成長できるこの環境こそ、わがゼミの最大の価値だと胸を張って言える。



退任の先生からのご挨拶

Greeting



『同経会報』 退職にあたって ありがとうございます

北川 雅章



1994年に同志社に入社し、1996年に八田学部長（現・同志社総長・理事長）の下で教務主任となつて以降、同経会の役員を務められた方々との面識ができました。教務主任を通過して7年間、学生主任を2年間、学部長を4年間務めた間はとりわけ大変お世話になりました。1997年からの「同経会寄付講座」、2003年からの「OB・OG講師の派遣」と「企業・工場見学会」、2004年からの公開講座「科学と技術」、2007年からの「海外インターンシップ」、2011年の同経会50周年記念事業などに経済学部で役職者としてかわらせていただきました。川北会長、秋山会長、小嶋会長時代が特にかかわりの深い時期にあたります。

これらの同経会事業の中では「企業・工場見学会」が印象に残っています。加古川市の神戸製鋼所、豊田市のトヨタ自動車、亀山市のシャープ、大東市の三洋電機（当時）、春日井市の王子製紙などの工場見学に随行させていただきました。また、「海外インターンシップ」の成果報告会で関係企業の方々と一緒に成果発表を聞いたりしたこと、印象に残っています。「卒業生のつどい」で故千玄室氏から同志社中学に入学した経緯、特攻隊員だった戦争中の体験、戦後の家元としての世界的な活動などの講演を聞いたことや、「東京のつどい」で故平尾誠二氏からご自身の高校、大学、神戸製鋼ラグビー部での経験の話とそれに基づいたリーダーシップ論の講演を聞いたことも心に残っています。2016年から2年間の副学長時代や2018年から7年間の同志社幼稚園長を兼任していた時代にも大学や法人関係の諸行事で、服部会長や田堂会長をはじめとした役員の皆様とお目にかかる機会がありました。

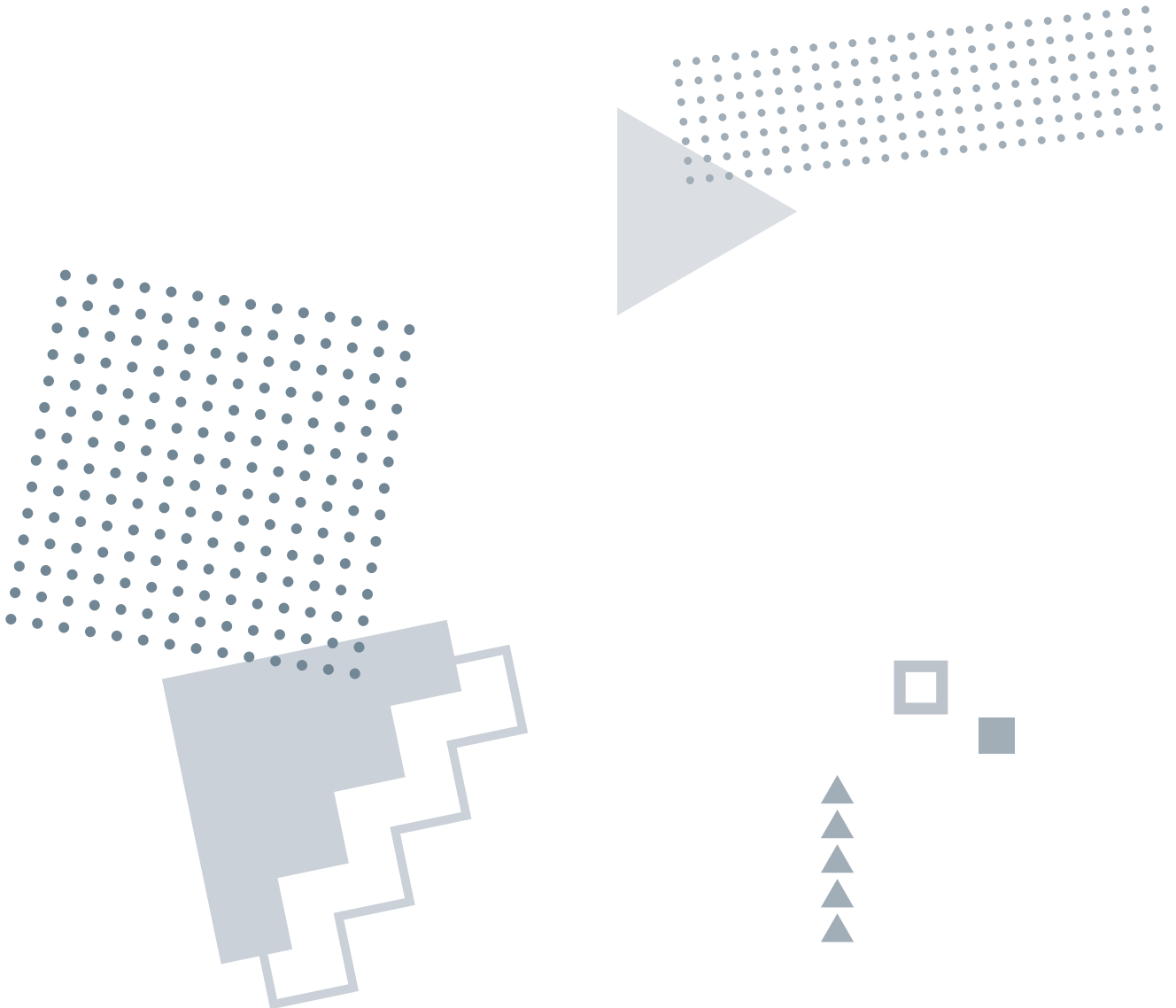
ここで少々PR的な話をさせていただきます。「七五三太（Shimeta）の会」という教職員の自主的研究会があり（奇しくも同経会のしめた会と同じ名前です）、私もメンバーでした。この会の成果の1つは「新島襄物語」をYouTubeで配信していることです。QRコードを記載しますが、インターネットでも「新島襄物語」で検索すればすぐにヒットします。幼稚園児でも分かりやすい、かわいくてやさしいイラストの動画です。是非ご覧いただきたい、ご家族やお知り合いの方々にも紹介していただければ幸いです（英語版もあります）。

私の教員生活は32年間で同志社創立150周年を迎えた2025年度末で退職しました。同経会の皆様にも長い間大変お世話になりました。感謝申し上げます。



同経会は同志社大学及び同志社大学経済学部
の教育、研究の充実、発展に協力することを目的と
されています。創立200周年に向けて、同経会も
伝統ある同経会賞の授与をはじめとして
経済学部生を支援する事業をこれからも
継続・発展させていただければと思います。そ
して、「新島襄物語」を見た若者が2075年の
創立200周年に貢献してくれることを願って
います。

「新島襄物語」QRコードから是非ご覧ください。





2025年
定時総会報告

Report

同志社大学経済学部同経会

2025年 定時総会議案書

- 第1号議案 2024年度事業報告並びに決算報告
- 第2号議案 2025年度事業計画並びに予算案
- 第3号議案 2025年度退任役員と新任役員について
- 第4号議案 同経会会則の改訂について

第1号議案

同志社大学経済学部 同経会

2024年度 事業報告

第1号議案

主な計数 TOPICS 2024年度

同経会終身会員数	<ul style="list-style-type: none">・ 支部活動活性化につとめ、会の魅力を伝えるとともに入会の促進をした・ 2,176名('21)⇒2,616名('22) ⇒ 2,701名('23)⇒ 2,736名('24)・ 中期目標は5,000名
委員長会議開催	<ul style="list-style-type: none">・ メンバー全員が出席して毎回開催した(12回開催)
財務基盤強化	<ul style="list-style-type: none">・ 広告宣伝募集などで35万円の収入を実現した(同経会報異形発行費用の一部に補填)・ 寄付募集の増強により約343万円の収入を実現した(累計533万円)(同経会奨学金制度維持財源とする)・ 終身会員の増強により10万円の収入を実現した(支部運営費用、情報発信投資費用として活用する)
情報発信強化	<ul style="list-style-type: none">・ フォロワー拡大(会員増強)を目指し、SNS、HPの充実に取り組んだ・ SNSフォロワー数は300名('22)⇒330名('23)⇒356名('24)(当面の目標は1,000人)・ ホームページ見直し計画着手(費用150万円、25年に完成予定)
経済学部への貢献	<ul style="list-style-type: none">・ 同経会奨学金制度が本年度から実施(生活支援、留学、スポーツ等総額260万円、12名に支給)・ 同経会賞32名表彰(同経会賞5名、アカデミア賞 16名、スポーツ賞10名、特別賞1名)・ 学部同窓会(4学部)合同就職支援プロジェクト開催(約70名応募、38名参加)・ 海外インターンシップ派遣支援、ITP、ダイキン、JAL様の支援で3カ国(4名)派遣(100万円支援)
OB/OG貢献	<ul style="list-style-type: none">・ 総会、つどいは11月9日開催(約230名)、講師日本サッカー協会会長宮本恒靖様(ホテルオークラ京都)・ しめた会7月27日(75名)、大阪3月11日(123名)、東海7月20日(30名)、東京10月3日(58名)・ 総会、支部総会以外にも多くのイベントが開催される(東海2、しめた3、大阪3企画実施)

第1号議案

同経会のビジョン

「より良い同経会
魅力ある同経会
それを継続する同経会
を目指すために」

第1号議案

スローガン

いかなる組織といえども
課題が存在しない組織はない

その課題を真摯に受け取め
克服し且つ継続して実践することで

初めてその組織が存在する
目的を全うすることになる

第1号議案

2024年度 事業報告

＜経済学部・学部生への貢献活動＞

- ①学生支援制度の創設(初年度)
- ②同経会賞の充実
- ③学生プロジェクトの支援
- ④海外インターンシップ
- ⑤就職支援プロジェクト(新企画)
- ⑥その他

奨学金支給(総額260万円)実施。生活支援、留学支援として活用頂く総勢32名(同経会、スポーツ、アカデミア各賞)を3月21日卒業式で表彰やおろず文学賞に参加
4名(アメリカ、タイ)へ8～9月に派遣。専門財源が枯渇。
4学部(同経会、樹徳会、政法会、理工会)共同開催。11月19日に40名参加
学校法人同志社の創立150周年事業(アニメ制作)に100万円寄付

＜OBOGへの貢献活動＞

- ①本部、支部の総会・つどい

大阪支部(3月11日開催)(参加者123名) 講師 坊垣 佳奈 氏
東海支部(7月20日開催)(参加者30名) 講師 横井 和彦 氏
しめた会(7月27日開催)(参加者75名) 講師 野村 正樹 氏
東京支部(10月3日開催)(参加者58名) 講師 三牧 聖子 氏
総会(11月9日開催)(参加者230名) 講師 宮本 恒靖 氏
大阪支部 ゴルフコンペ(25名)、3学部ビジネス交流会(60名、経済学部21名)
しめた会 ゴルフコンペ(21名)、音楽ライブイベント(63名)
東海支部 若手交流会(春23名、冬17名)

- ②企画立案と運営

＜活動基盤の強化＞

- ①財務基盤強化

寄付を呼び掛ける(343万円)、奨学金及び海外インターンシップ費用に活用
会費納入促進(21万円)、広告宣伝(35万円) 支部活動及び同経会報費用に活用
HPの改修、SNSによる発信促進、24年5月同経会報(90号)発行
若手を中心に総勢28名の新執行理事が誕生

- ②情報基盤強化
- ③運営基盤の強化

第1号議案、第2号議案

2024年度決算及び2025年度予算案

(単位:円)

項目	2024年度予算(A)	2024年度決算(B)	差額(B)-(A)	主な差異要因	2025年度予算案(C)	実質比(C)-(B)	主な増減要因
1 前年度繰越金	16,650,529	16,650,528	480,000	862名	18,313,114	1,662,586	
2 収入	12,450,000	12,930,000	480,000	862名	12,450,000	-480,000	830名増定
3 寄付	1,500,000	3,430,000	1,930,000	役員+一般会員(60才以上)からの寄付	3,000,000	-430,000	
4 広告掲載料 ホームページ	100,000	90,000	-10,000		100,000	10,000	
5 広告掲載料 会報名刺	700,000	290,000	-410,000		700,000	410,000	
6 預金利息	115	5,293	5,178		5,000	-293	
7 終身会費運用益	213,284	63,366	-149,918	個人時と償還時の差額	200,000	136,634	
8 終身会費より繰り入れ	3,000,000	3,000,000	0		4,000,000	1,000,000	インターンシップ費金を追加
9 当年度収入合計 ①	17,963,399	19,808,659	1,845,260		20,455,000	646,341	
10 合計	34,613,928	36,459,185	1,845,260		38,768,114	2,308,929	
11 奨学金	3,100,000	2,600,000	-500,000		3,600,000	1,000,000	通常310万円+繰越50万円
12 学生プロジェクト費+学生支離関係費	100,000	15,000	-85,000		700,000	685,000	執務支援PT、父母会連携
13 海外インターンシップ関係費	250,000	219,336	-30,664		1,000,000	780,664	国際交流支援基金の残高なし
14 会報発行費	2,000,000	1,587,633	-412,367		1,600,000	12,367	
15 広告、ホームページ関係費	500,000	226,126	-273,874		2,000,000	1,773,874	ホームページ改修費165万含む
16 同経会費、卒業記念品費	2,100,000	1,476,718	-623,282	卒業記念品在庫250個利用のため残注減	2,100,000	623,282	
17 学術助成金	100,000	100,000	0		100,000	0	
18 大学への寄付(150周年記念基金)	0	1,000,000	1,000,000	150周年記念基金(同志社アニメへの寄付)	0	-1,000,000	
19 各支部活動補助	0	0	0		0	0	
20 大阪	450,000	323,876	-126,124		500,000	176,124	
21 東海	450,000	392,580	-57,420		450,000	57,420	
22 東京	420,000	355,667	-64,333		450,000	94,333	
23 奈良	0	38,000	38,000		50,000	12,000	
24 しめた会	550,000	524,798	-25,202		700,000	178,202	
25 総会費用	600,000	398,623	-201,377		900,000	298,623	
26 企画委員会関係費	100,000	81,241	-18,759		100,000	18,759	
27 総務委員会関係費	3,100,000	1,371,331	-1,728,669	寄付の依頼状を60才以上に限定	3,500,000	2,128,669	寄付者への送礼品200万含む
28 会議費	300,000	402,799	102,799		400,000	-2,799	
29 人件費	4,000,000	4,005,807	5,807		4,000,000	-5,807	
30 旅費交通費	500,000	386,588	-113,412		400,000	-134,412	
31 通信費	500,000	387,334	-112,666		400,000	-126,666	
32 印刷費	300,000	94,101	-205,899		100,000	5,899	
33 交際費	100,000	70,000	-30,000		70,000	0	
34 事務費	100,000	85,301	-14,699		90,000	4,699	
35 雑費	600,000	64,852	-535,148		700,000	5,148	
36 福利厚生費	600,000	688,904	88,904		700,000	31,096	
37 名簿管理運営費	672,400	672,400	0		700,000	27,600	
38 支出の部 合計 ②	20,952,400	18,146,075	-2,806,325		24,680,000	6,533,925	
39 当年度収支差額 ①-②	-2,989,001	1,662,584	4,651,585		-4,225,000	-5,887,584	
40 次年度繰越金	13,661,525	13,661,525	0		14,088,114	4,226,589	
41 合計	34,613,928	36,459,185	1,845,260		38,768,114	2,308,929	

第1号議案、第2号議案

2024年度決算及び2025年度予算

終身会費積立金

項目	2024年度予算(A)	2024年度決算(B)	差額(B)-(A)	主な差異要因	2025年度予算案(C)	実質比(C)-(B)	主な増減要因
前年度繰越金	71,771,958	74,771,958	0		71,981,958	-2,790,000	
終身Web会費	100,000	210,000	110,000	Web会費未納の役員からの入金	700,000	490,000	
終身会費運用益 *1	213,284	63,366	-149,918	償還による差額(購入時と償還時の差額)	200,000	136,634	
預金利息 *2	115	5,293	5,178		5,000	-293	
当年度収入合計 ①	313,399	278,659	-34,740		905,000	626,341	
合計	75,085,358	75,050,618	-34,740		72,886,958	-2,168,660	
事業支出(一般会計へ繰り入れ)	3,000,000	3,000,000	0		4,000,000	1,000,000	海外インターンシップ費用
経常費へ振替 *1	213,284	63,366	-149,918		200,000	136,634	
経常費へ振替 *2	115	5,293	5,178		5,000	-293	
当年度支出合計 ②	3,213,399	3,068,659	-144,740		4,205,000	1,136,341	
当年度収支差額 ①-②	-2,900,000	-2,790,000	110,000		-3,300,000	-510,000	
次年度繰越金	71,871,958	71,981,958	110,000		68,681,958	-3,300,000	
合計	75,085,358	75,050,618	-34,740		72,886,958	-2,168,660	

国際交流支援基金

項目	2024年度予算(A)	2024年度決算(B)	差額(B)-(A)	主な差異要因	2025年度予算案(C)	実質比(C)-(B)	主な増減要因
前年度繰越金	794,123	794,123	0		0	0	
海外インターンシップ事業	794,123	794,123	0		0	0	
次年度繰越金	0	0	0		0	0	

2024年度決算及び2025年度予算

貸借対照表

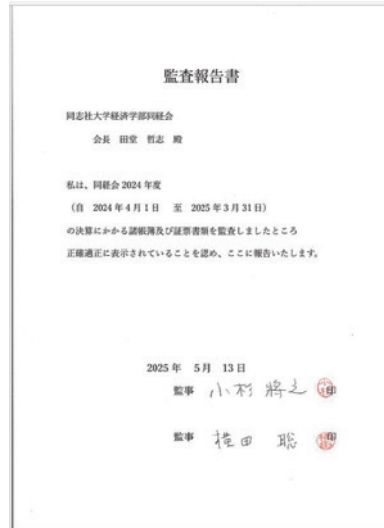
2025年 3月 31日 現在

(単位:円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金預金	31,316,094	終身会費積立金	71,981,953
有価証券	51,039,337	退職給与積立金	2,500,000
預け金	10,439,638	国際交流支援基金	0
		次期繰越金	18,313,110
合計	92,795,069	合計	92,795,069

◆現金預金			
みずほ銀行	由町支店	(経常勘定口)普通預金	2,013,311
"	"	(終身勘定口)普通預金	11,667,275
"	"	(終身勘定口)定期預金	1,000,000
ゆうちょ銀行	京都室町上立売郵便局	振替口座(会費入金)	7,528,467
ゆうちょ銀行	京都室町上立売郵便局	振替口座(その他入金)	8,607,895
小口現金		事務局金庫	499,146
		合計	31,316,094
◆有価証券			
SMBC日興証券	北海道公債 お預かり金	(終身勘定口) (終身勘定口)	10,000,000 20,039,337
		合計	30,039,337
野村証券	広島県公債	(終身勘定口)	21,000,000
		合計	21,000,000
		有価証券合計	51,039,337
◆預け金			
		入会金(大学経理課)	10,439,638

2025年度決算 監査報告



同経会に関する解決すべき重要な課題について

①学部同窓会組織の強化(現在の学部同窓会は体制不備)

- 法学部 (政法会) 設立1994年(30年の歴史)
- 理工学部 (理工会) 設立1994年(30年の歴史)
- 商学部 (樹徳会) 設立1926年(100年の歴史)
- 経済学部 (同経会) 設立1961年(64年の歴史)

- (1)「ゼミ」という明確なIdentityを保有する共通の価値観を有する同窓会組織
- (2)10/14学部の同窓会組織の設立支援

②人海戦術及び属人的関係に頼る集客方法(連続する企画の集客活動に疲弊)

(若手の参加は単なる掛け声だけで具体的な方策なし)

- ・経済学部は「ゼミ」という強い絆を保有
- ・所属したスポーツ(クラブ)、文化部(サークル)も強い絆を保有
- ・同学年卒業は同世代を過ごした同僚
職業別業種、業界でのサークルはライバルであり仲間

- (1)「明確なIdentityは母校愛の根幹」
この琴線に触れる活動(組織化)が必要
- (2)学年別同窓会、ビジネス交流の組織化と運営

③終身会費の徴収未実現(更なる貢献活動の源泉の喪失)

- ・2018年～大学による卒業生の会費代理徴収が開始
(800人/学年×7年間=5,600人完全徴収実現)
- ・2018年以前の卒業生の終身会費未徴収の実現
(既納入者を除く約30,000人の卒業生が未納)

- (1)約1,500万円の納付活動の促進
(3,000人×5,000円)
- (2)経済学部、学部生、OBOGへの貢献活動強化

同志社大学経済学部 同経会

2025年度 事業計画

2025年度 事業計画

<経済学部・学部生への貢献活動>

- ①学生支援制度の運営(2年目) 奨学金支給(総額360万円)実施。生活支援、海外留学、スポーツ支援に活用予定
- ②学生プロジェクトの支援 秀和(榎)とのプロジェクト計画推進
- ③就職支援プロジェクト(2年目) 4学部共同開催。6月6日に「インターンシップ」をテーマに開催(参加者54名、経済学部24名)
- ④海外インターンシップ 支援継続方針、更に経済学部をより良いサポート体制検討

<OBOGへの貢献活動>

- ①本部、支部の総会・つどい
 - 大阪支部(5月13日) 講師 杉原 佳亮 氏
 - 総会 (7月26日) 講師 宮崎 良一 氏
 - 東海支部(9月13日) 講師 今田 素子 氏
 - しめた会(9月27日) 講師 柴田 茂樹 氏
 - 東京支部(11月12日) 講師 広瀬 友紀 氏
- ②企画立案と運営
 - 大阪支部 9月ビジネス交流会(3学部共催)、11月ゴルフコンペ
 - しめた会 4月BBQ懇親会、5月ゴルフコンペ
 - 東海支部 5月若手交流会
- ③支部活性化活動
 - 新支部(奈良、滋賀、石川)設立に向けた推進活動、関東地区4学部合同懇親会検討

<活動基盤の強化>

- ①財務基盤強化 奨学金拠出による内部留保減少、インターンシップ基金枯渇の補填策(寄付活動促進)
- ②情報基盤強化 ホームページの全面改修、情報発信充実(予算150万円)
- ③運営基盤の強化 同経会報25年春91号発刊予定、紙媒体からデジタルでの発信転換検討
同経会組織の再構築及び運営方法の見直し

2025年度退任役員と新任役員

退任役員	名誉顧問	河合一郎 (S55卒)		
	執行理事	総務支援委員会	近藤和夫 (S44卒)	今出健一 (S45卒)
新任役員	執行理事	総務支援委員会	山口祝嗣 (S58卒)	
		東海支部	池田 香 (S62卒)	藤原弘明 (H27卒)

同経会会則の改訂について

現在の会則には、理事会、委員長会議、支部に関する規則が定められていないことから、これを新設。

【同経会会則】

- 執行理事会は開催していないため関連文言を削除
- 理事会、委員長会議の構成、開催、決議事項を定義
- 支部の設置に関する目的、手順を明記

別紙、改定案をご参照ください。

同経会会則改訂案

【下記の下線部分を削除】

第3章 役員

第9条 2. 会長は本会を代表し、会務を総括し、かつ総会、理事会および執行理事会を招集し、その議長となる。

【下記を新設し以降の条数を繰り下げる】

第5章 理事会

第15条 理事会は定時理事会と臨時理事会とする。

理事会は理事によって構成する。

第16条 定時理事会は毎年1回これを開く。

臨時理事会は会長が必要と認めたときに開く。

理事会の招集通知は理事に対して期日より10日前に発送しなければならない。招集通知には理事会開催の目的を示さなければならない。

第17条 理事会の議事は出席している理事の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長がこれを決する。

第18条 下記の事項は定時理事会に提出してその承認を受けなければならない。

1. 前年度事業報告
2. 前年度会計報告
3. 新年度事業計画
4. 新年度収支予算

第19条 理事会開催の都度議事録を作成し、議事録署名人が署名し、事務局に保管する。

第6章 委員長会議

第20条 委員長会議は、会長、副会長及び専務理事、委員長をもって構成する。

委員長は委員会の担当役員の中から会長が指名する。

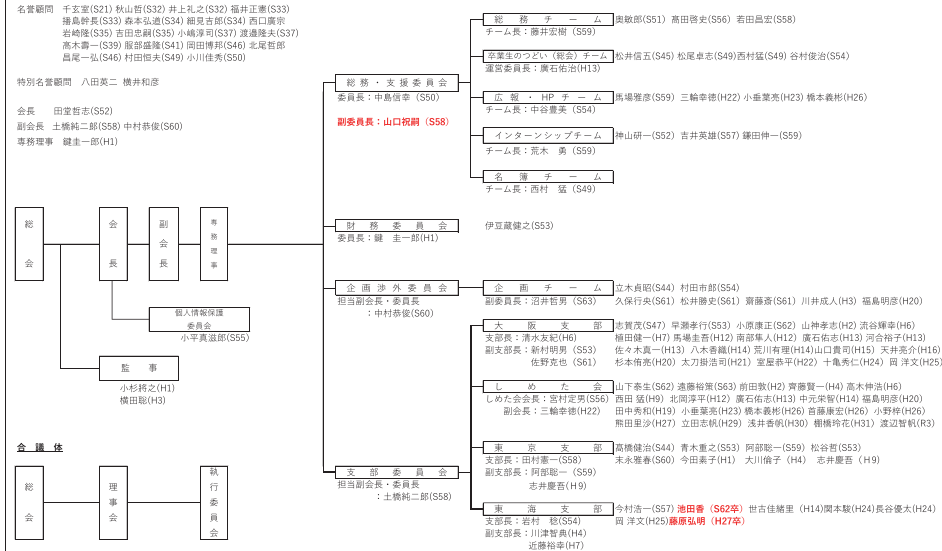
会長は必要に応じて、その他の役員の中から委員長会議に出席する役員を指名することが出来る。

- 第 21 条 委員長会議は会長が招集し、その議長となる。
- 第 22 条 委員長会議は業務執行における以下の事項を決する。
1. 理事会に上程する議事に関する事項
 2. 業務執行に関する重要な事項
 3. 資産管理に関する事項
 4. 会長、副会長、専務理事、監事候補者の推薦に関する事項
 5. 支部、委員会等の組織設置に関する事項
 6. 会則の施行について必要な事項
 7. その他会長が必要と認めた事項

第 7 章 支部

- 第 23 条 本会の目的を達成するため、支部を設置することができる。
支部は、その地域に主たる活動の拠点を有する会員により組織され、広域性及び地域としての一体性を有し、本会の目的に適合するものをいう。
- 第 24 条 支部の設立をしようとする者は、支部設置の申請を行い、委員長会議の審議を得て、理事会の承認を得なければならない。
- 第 25 条 理事会は、前条の申請が次の各号に適合し相当と認めるときは、支部の設置を承認するものとする。
1. 支部設立の目的が本会の目的に適合すること
 2. 支部の規模として十分な活動が見込まれ、かつ継続性がみこまれるものであること
 3. 地域が特定されていること

2025年度同経会組織図



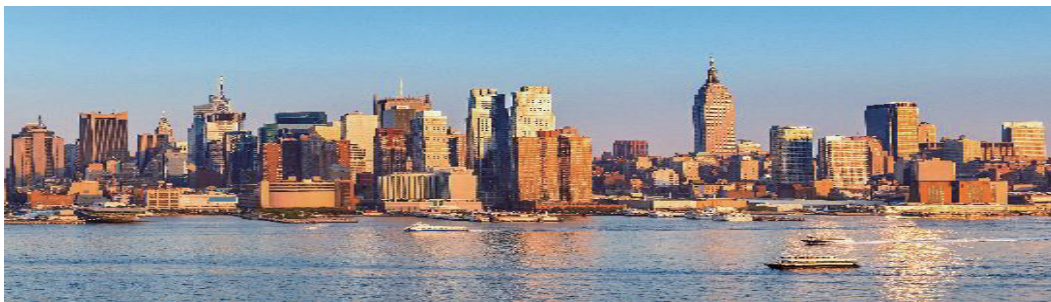
企業広告 名刺広告

Advertisement

ご協力いただきました企業様および同経
会役員の皆様、誠にありがとうございます。
ここに改めて厚く御礼申し上げます。
ご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し
上げます。



株式会社 DEN グローバルコンサルティング会社



世界基準の経営革新をご提案
あらゆる経営課題にお答えします

代表取締役
田堂 哲志

tado@shilosolution.jp
大阪市北区豊崎 3-16-16-1914 号

労務の指導とアウトソーシング

土橋労務管理事務所

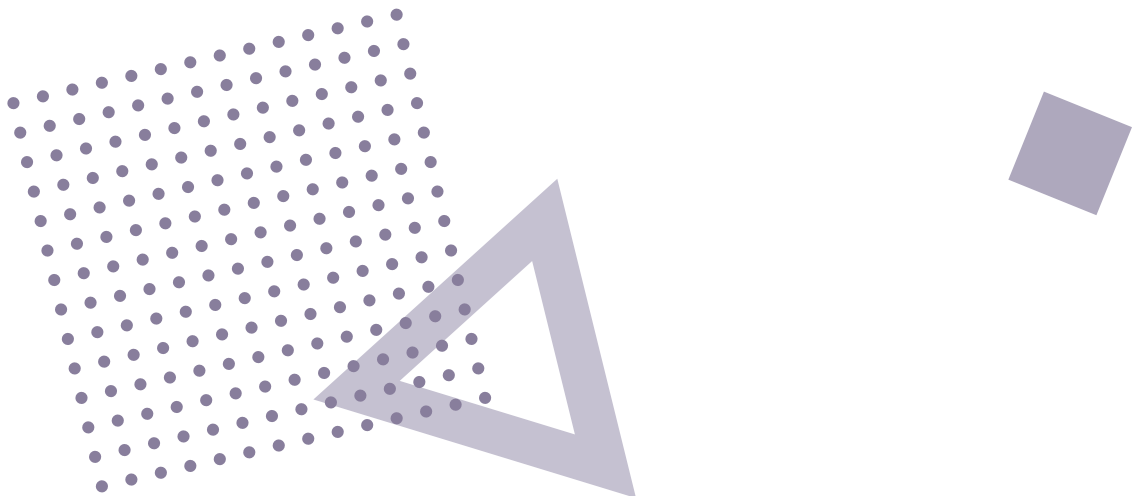
DOBASHI HUMAN RESOURCE MANAGEMENT OFFICE




社会保険労務士 / 労働保険事務組合 / 登録支援機関（特定技能外国人受け入れ支援）

代表 特定社会保険労務士
土橋 純二郎

〒540-0031 大阪市中央区北浜東6-6 アクアタワー4F
電話 06-4397-3630（代） FAX 06-4397-3631
E-mail : jdobasi@arion.ocn.ne.jp
www.dobashi-roumu.gr.jp




 取締役会長
福 井 正 憲
 株式会社
福 寿 園

本社・工場 京都府木津川市山城町上狹尾修り道二
 CHAIRMAN MASANORI FUKUI
 FUKUJEN CO., LTD.
 YAMASHIRO-CHO, KIZUGAWA-CITY, KYOTO
 TEL(0774)8613911
 E-mail : m-fukui@fukujuen.com
 U R L : https://fukujuen.com/

名譽会長
 クロイバルグループ
 代表執行役員
井 上 礼 之
 ダイキン工業株式会社


〒530-0001 大阪市北区梅田一丁目十三番一号
 大阪梅田ツインタワーズ・サウス


北尾 哲郎
 取締役会長


日東薬品工業ホールディングス株式会社
 本社
 〒617-0006 京都府向日市上狹野町南開35-3
 Tel 075-921-5344 Fax 075-934-4889
 t.kitao@nitto-ph.com
 https://www.nitto-pharma.co.jp

日東薬品工業HDグループ
 日東薬品工業株式会社/Noster株式会社

株式会社 GANKO
小嶋 淳 司
 社 主


 〒532-0021 大阪市淀川区田川北1-4-983
 FAX 06-6633-0088
 TEL 06-6633-0082
 983




 同志社大学経済学部 同経会

会 長 田 堂 哲 志
 TETSUSHI TADO

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
 同志社大学経済学部事務室内
 TEL:075-251-3524 FAX:075-251-3136
 携帯: 090-4718-4578 E-mail:tado@shilosophy.jp


株式会社 DEN

Tetsushi TADO
代表取締役 田堂 哲志

 〒541-0054 大阪市中央区南本町2-5-13
 ブランズタワー大阪本町3003

 tado@shilosophy.jp
 090-4718-4578



同志社大学経済学部 同経会

副会長 中村 恭俊

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東八 同志社大学経済学部事務室内
TEL: 075-251-3524 FAX: 075-251-3136

E-mail: yasu.nakamura.chu.son@gmail.com

土橋労働管理事務所
DOBASHI LABOR AND SOCIAL SECURITY ATTORNEY OFFICE

所長 土橋 純二郎
特定社会保険労務士

〒540-0031 大阪市中央区北浜東6番6号 アクアタワー4F
電話 06-4397-3630(代) FAX 06-4397-3631
E-mail: jdobasi@arion.ocn.ne.jp
www.dobashi-roumu.gr.jp



公益社
プライトホール

松井 信五

取締役会長
090-1073-4667
s-matsui@koekisha-kyoto.com

株式会社 公益社

本社
〒604-8161
京都市中京区烏丸通六角上ル
饅頭屋町608

TEL 075-221-4000
FAX 075-241-0420
☎0120-004-200

ホームページ



PwC Japan有限責任監査法人
〒600-8008
京都府京都市下京区四条通烏丸東入ル
京都三井ビル7F
代表 075 241 1901
FAX 075 241 1902
keiichiro.k.kagi@pwc.com

鍵 圭一郎
公認会計士
パートナー
執行役代表代行

西村公認会計士事務所
NISHIMURA C.P.A. OFFICE

公認会計士 / 税理士

西 村 猛

〒604-8175
京都市中京区室町御池下ル円福寺町 342-1
VOICE21 ビル 303号
TEL 075-708-8147 FAX 075-708-8767
携帯 090-3926-4781
E-mail nishitake@soleil.ocn.ne.jp



GANKO

特別顧問
志 賀 茂

株式会社 GANKO
[本部]
〒532-0021 大阪市淀川区田川北1-4-23
Tel 06-6308-2233
Mobile 090-2190-1818
E-mail s-shiga@gankofood.co.jp
https://www.gankofood.co.jp

SHUWA 服飾雑貨・袋物製造販売
HEARTY WARES & PLANNING <https://shuwa.jp>



代表取締役 **奥 敏郎**
OKU TOSHIO

秀和株式会社
〒606-8392
京都市左京区聖護院山王町28-29
TEL: 075-751-0086 (代表) FAX: 075-752-1164
E-mail: oku@shuwa.jp 090-3712-2740



同志社大学経済学部 同経会

総務支援委員長

執行理事 **中 島 信 幸**

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 090-9115-4726 E-mail: akavi609@tcn.zaq.ne.jp



島之内新島勉強会



代表 **早瀬 孝行**

〒531-0076
大阪市北区大淀中4-15-18-1406
☎ 090-1448-7080
✉ hayase1406@yahoo.co.jp

JIPANG

ディレクター

新村 明男 AKIO NIIMURA
a-niimura@jipang.co.jp 携帯 080-7528-1392

株式会社 **ジパング**

本 社 / 〒544-0033 大阪市生野区勝山北 3-15-11
Tel: 06-6741-2809 Fax: 06-6715-2809
<http://www.jipang.co.jp/ap/>



同志社大学経済学部 同経会

執行理事 **谷 村 俊 治**

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
携帯: 090-5136-3359 E-mail: poti1010@icloud.com



同志社大学経済学部 同経会

東海支部長

執行理事 **岩 村 稔**

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 075-251-3524 FAX: 075-251-3136
携帯: 090-1284-6501 E-mail: iwachan26de@gmail.com



同志社大学経済学部 同経会

しめた会会長

執行理事 宮村 定男

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
TEL: 075-251-3524 FAX: 075-251-3136
携帯: 090-8937-1397 E-mail: stmiyamura386@ybb.ne.jp

中

谷

(宗豊)

豊美)

〒六〇六一八三〇一
京都市左京区吉田泉殿町四七
TEL/FAX 〇七五―七六一―二九二五



同志社大学経済学部 同経会

執行理事 山口 祝嗣

NORITSUGU YAMAGUCHI

事務局: 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学経済学部事務室内
携帯: 090-7341-5646 E-mail: tugu25kun@outlook.jp

業務会社 理事
新事業企画室 室長
公益社団法人
日本証券アナリスト協会 認定アナリスト



WIN-WIN RELATIONSHIPS
CREATE THE WORLD'S No.1 PRODUCTS

田村 憲一

株式会社東京精密

〒192-8515 東京都八王子市石川町2968-2
Tel: 042-642-1701 Fax: 042-642-1798
携帯: 070-3191-4683
E-mail: kenichi.tamura@accuretech.com
www.accuretech.com



大阪で学ぶ同志社の「志」

同志社香里中学校・高等学校

教頭

藤井 宏樹

Hiroki Fujii

〒572-8585 大阪府寝屋川市三井南町 15-1
TEL: (072)831-0285 FAX: (072)834-3750
URL: https://www.kori.doshisha.ac.jp/
E-mail: hiro23@kori.doshisha.ac.jp



事務長

鎌田 伸一

同志社中学校・高等学校

〒606-8558
京都市左京区岩倉大鷲町 89
TEL 075-781-7121
FAX 075-781-7124
E-mail scene-1@js.doshisha.ac.jp



日本総務部

佐野克也
代表取締役社長

株式会社パソナ日本総務部
大阪市中央区北浜東4-33
北浜ネクスビル
〒540-0031
Tel 06 6910 1380
ksano@pasona-ns.co.jp
www.pasona-ns.co.jp



Business Process Outsourcing Partner

総合建設業(一般建築・社寺・数寄屋建築)



株式会社 **アラキ工務店**
一級建築士事務所



代表取締役 **荒木 勇**

〒615-0906 京都市右京区梅津高畝町52-2
tel: 075-882-8668
fax: 075-872-0223
mail: i-araki@kyoto.zaq.jp
URL: https://www.kyoto-araki.jp/

株式会社 齊藤総研
齊藤賢一公認会計士事務所
齊藤賢一税理士事務所

公認会計士 **齊藤 賢一**
税理士

〒600-8035 京都市下京区寺町通高辻下ル京極町488
More河原町1号館 201号
TEL 080-5352-0594
E-mail: kenichi.saito@sage.ocn.ne.jp




コーポレートオフィサー
管理本部長

山下 泰生

株式会社堀場製作所
〒601-8510 京都市南区吉祥院窓の塚町2番地
TEL 075-325-5006 (直通) TEL 075-313-8121 (代表)
FAX 075-321-8312
E-mail: yasuo.yamashita@horiba.com
https://www.horiba.co.jp

Explore the Future **HORIBA**




不動産売買仲介
既存住宅の再生利活用
相続コンサルティング・農業事業

代表取締役社長
三輪 幸徳
YUKINORI MIWA

宅地建物取引士/賃貸不動産経営管理士
公認不動産コンサルティングマスター
2級FP技能士/国内旅行業務取扱管理者
福祉住環境コーディネーター2級

同志社大学経済学部卒業。保険・建築営業を経て、2児の子育て奮闘中です。

〒616-8352 京都市右京区嵯峨大沢落久保町5番地1
きぬかけの道(一条通)面す 広沢池西へ
E-MAIL miwa.yukinori@saito-kyoto.com
TEL 075-432-7655 FAX 075-432-7835 MOBILE 080-3813-5523



法律事務所 **三ツ星**
THE MITSUBOSHI LAW FIRM

弁護士・税理士・中小企業診断士

廣石 佑志
Yuji Hiroishi

hiroishi@mitsuboshi-law.jp
路上自衛隊予備3佐(予備自衛官)
経営心理士/公認不正検査士

法律事務所 三ツ星
〒541-0042 大阪市中央区今橋2-3-21
今橋藤波ビルディング4階
Tel. 06-6222-3035 Fax. 06-6222-3036
www.mitsuboshi-law.jp



御刀司 二条城前

藏屋はしもと

橋本義彬

〒604
8302
京都市中京区堀川通御池上る池元町四〇八一二九
電話 〇七五八一―四六四九
複写電送装置 〇七五八一―四六四九



執行役員
M&Aコンサルティング本部長

十亀 秀仁

Hidehito Sogame

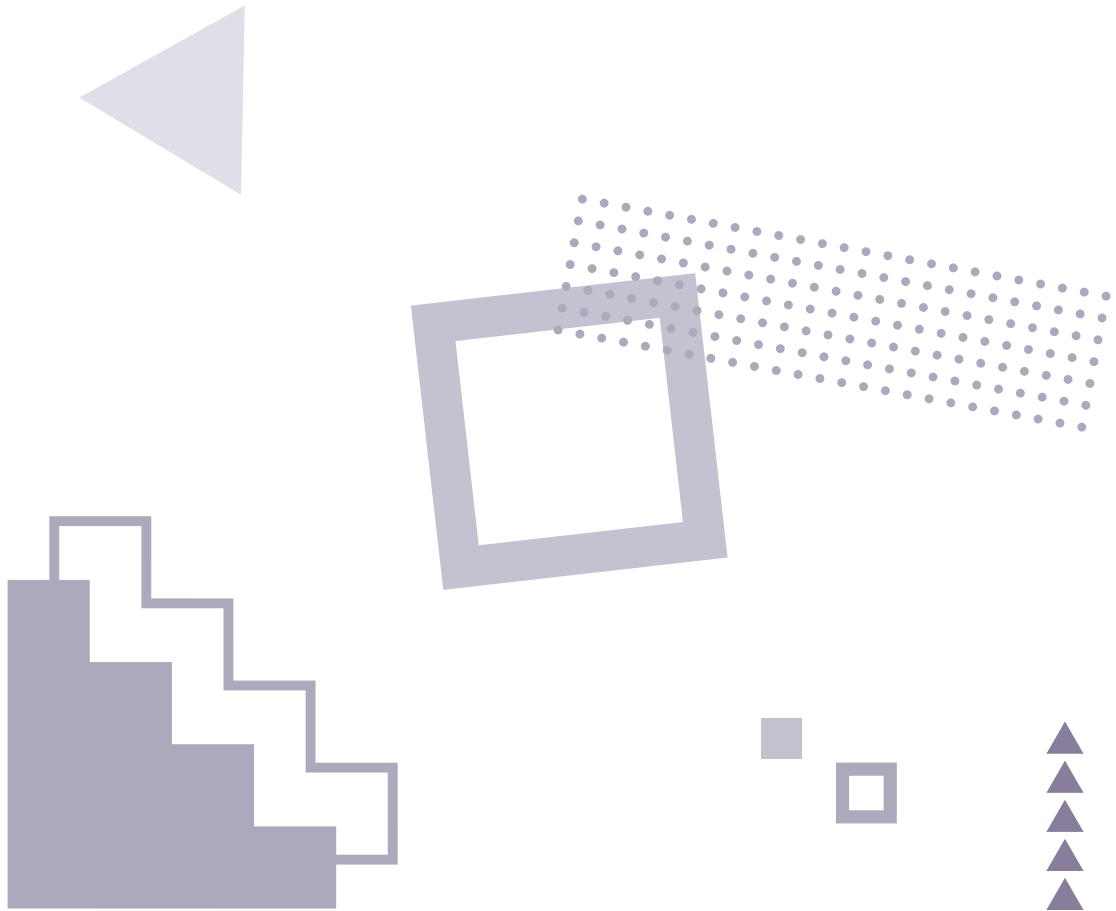
080 4114 7274

h.sogame@fundbook.co.jp

株式会社 fundbook
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-23-1
虎ノ門ヒルズ森タワー25F
<https://fundbook.co.jp>



fundbookは株式会社チェンジワールドデイングス
(東証プライム上場)のグループ企業です



同経会として
故千玄室様を「永久フェロー」に

同経会名誉顧問の千玄室様が令和7年8月14日お亡くなりになりました。

同経会の会長を歴任され、ご講演や会報への特別インタビューなども気楽にに応じていただき、同経会の活動に対し多大なるご理解とご支援を賜りました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げます。

同経会としては、これまでのご貢献に感謝するとともに「永久フェロー」として末永くご功績を称えることといたしました。

本件につきましては、ご家族様のご了解も頂戴しております。

寄付へのお礼とご報告

同経会では経済学部並びに経済学部在学学生への貢献と、卒業生のメリットとなる企画を立案し、実践すべく活動の一層の強化を目指しております。この活動の基盤となる同経会の財務基盤強化を図る目的に寄付をお願いしましたところ、多くの同経会員の皆様のご理解とご賛同を頂戴し、2025年度は3,565,000円、これまでの累計総額は11,045,000円のご寄付を賜りました。ここに心よりお礼を申し上げますと共に、会員の皆様にご報告申し上げます。

なお、寄付につきましては、募集期間を設けず受け付けております。今後もご協力を賜りますようお願い申し上げます。

また、2026年1月に発送しました寄付お願い状に、業務委託先の手違いにより「終身web会費」専用の振込用紙が間違っており、皆様にご迷惑をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

そのような中、同経会に対するご懇篤なるお志に感謝申し上げますとともに、2026年1月以降に5,000円または10,000円のご入金をいただいた方には、このご芳志が同経会へのご寄付なのか終身web会費のお支払いなのかを事務局から順次確認させていただき、ご寄付の場合は次号で掲載させていただきますのでどうぞご了承ください。



2022年度寄付

昭和 33 年卒業	播島 幹長 様	1,000,000 円
昭和 52 年卒業	田堂 哲志 様	200,000 円
昭和 34 年卒業	森本 弘道 様	150,000 円
昭和 34 年卒業	細見 吉郎 様	50,000 円
昭和 37 年卒業	渡邊 隆夫 様	50,000 円

ご芳名のみ

昭和 21 年卒業	千 玄室 様
昭和 21 年卒業	井上 礼之 様
昭和 33 年卒業	福井 正憲 様

匿名

50,000 円 1 件

2023年度寄付

昭和 55 年卒業	河合 一郎 様	500,000 円
昭和 44 年卒業	高橋 修 様	200,000 円
昭和 52 年卒業	田堂 哲志 様	200,000 円
昭和 44 年卒業	立木 貞昭 様	100,000 円
昭和 46 年卒業	北尾 哲郎 様	100,000 円
昭和 57 年卒業	今村 浩一 様	100,000 円
昭和 58 年卒業	土橋 純二郎 様	100,000 円
昭和 61 年卒業	齋藤 斎 様	100,000 円
昭和 32 年卒業	井上 礼之 様	50,000 円
昭和 38 年卒業	橋本 久幸 様	50,000 円
昭和 39 年卒業	高木 壽一 様	50,000 円
昭和 47 年卒業	志賀 茂 様	50,000 円
昭和 52 年卒業	神山 研一 様	50,000 円
昭和 58 年卒業	田村 憲一 様	50,000 円
昭和 62 年卒業	山下 泰生 様	50,000 円

ご芳名のみ

昭和 45 年卒業 松井 信五 様

2024年度寄付

昭和 34 年卒業	芳崎 榮治 様	500,000 円
昭和 52 年卒業	田堂 哲志 様	200,000 円
昭和 31 年卒業	山城 陽一 様	100,000 円
昭和 33 年卒業	福井 正憲 様	100,000 円
昭和 35 年卒業	岩崎 隆 様	100,000 円
昭和 36 年卒業	望月 保則 様	100,000 円
昭和 37 年卒業	渡邊 隆夫 様	100,000 円
昭和 42 年卒業	崎山 和男 様	100,000 円
昭和 43 年卒業	水主 邦彦 様	100,000 円
昭和 46 年卒業	北尾 哲郎 様	100,000 円
昭和 57 年卒業	今村 浩一 様	100,000 円
昭和 58 年卒業	土橋 純二郎 様	100,000 円
昭和 58 年卒業	下代 博 様	100,000 円
昭和 60 年卒業	山田 和広 様	100,000 円
昭和 32 年卒業	井上 礼之 様	50,000 円

昭和 34 年卒業	細見 吉郎 様	50,000 円
昭和 37 年卒業	卜部 能尚 様	50,000 円
昭和 37 年卒業	小嶋 淳司 様	50,000 円
昭和 39 年卒業	武田 博泰 様	50,000 円
昭和 43 年卒業	内山 易 様	50,000 円
昭和 43 年卒業	中村 ケイ子 様	50,000 円
昭和 44 年卒業	山川 寛之 様	50,000 円
昭和 45 年卒業	田中 貞雄 様	50,000 円
昭和 46 年卒業	岡田 博邦 様	50,000 円
昭和 49 年卒業	野田 昌弘 様	50,000 円
昭和 49 年卒業	田島 龍一 様	50,000 円
昭和 50 年卒業	西田 昭博 様	50,000 円
昭和 51 年卒業	岡 光洋 様	50,000 円
昭和 52 年卒業	星井 敏明 様	50,000 円
昭和 53 年卒業	若原 正彦 様	50,000 円
昭和 54 年卒業	岩村 稔 様	50,000 円
昭和 54 年卒業	後藤 晃 様	50,000 円
昭和 55 年卒業	長瀬 孝充 様	50,000 円
昭和 56 年卒業	宮村 定男 様	50,000 円
昭和 57 年卒業	岩本 憲彦 様	50,000 円
昭和 59 年卒業	馬場 雅彦 様	50,000 円
平成 1 年卒業	鍵 圭一郎 様	50,000 円
昭和 26 年卒業	眞下 喜二郎 様	10,000 円
昭和 30 年卒業	乾 好 様	10,000 円
昭和 39 年卒業	益国 健一 様	10,000 円
昭和 40 年卒業	長谷川 禎三 様	10,000 円
昭和 41 年卒業	下村 昭治 様	10,000 円
昭和 53 年卒業	宮本 雅弘 様	10,000 円

ご芳名のみ

昭和 37 年卒業	福永 晃三 様
昭和 37 年卒業	神服 一夫 様
昭和 40 年卒業	平川 公一 様
昭和 49 年卒業	圓城 満郎 様
昭和 55 年卒業	山内 一 様
昭和 61 年卒業	奥村 強志 様

匿名

50,000 円 1 件

10,000 円 1 件

2025年度寄付

昭和 52 年卒業	田堂 哲志 様	200,000 円
昭和 53 年卒業	白石 雅彦 様	200,000 円
昭和 56 年卒業	谷好 一紀 様	200,000 円
昭和 37 年卒業	三宅 健司 様	100,000 円
昭和 40 年卒業	小田 昌宏 様	100,000 円
昭和 43 年卒業	小山 元治 様	100,000 円
昭和 44 年卒業	立木 貞昭 様	100,000 円
昭和 58 年卒業	土橋 純二郎 様	100,000 円
昭和 58 年卒業	下代 博 様	100,000 円
昭和 60 年卒業	山田 和広 様	100,000 円
昭和 50 年卒業	山崎 邦彦 様	80,000 円
昭和 21 年卒業	川崎 正典 様	50,000 円
昭和 27 年卒業	赤松 仁明 様	50,000 円
昭和 30 年卒業	早川 幹雄 様	50,000 円
昭和 31 年卒業	木村 正雄 様	50,000 円
昭和 33 年卒業	桑畑 佳主巳 様	50,000 円
昭和 34 年卒業	松崎 博成 様	50,000 円
昭和 35 年卒業	吉田 忠嗣 様	50,000 円
昭和 35 年卒業	加藤 勇 様	50,000 円
昭和 37 年卒業	福永 晃三 様	50,000 円
昭和 38 年卒業	前 哲夫 様	50,000 円
昭和 39 年卒業	寺崎 勝彦 様	50,000 円
昭和 41 年卒業	森岡 正宏 様	50,000 円
昭和 41 年卒業	川上 厚紀 様	50,000 円
昭和 41 年卒業	野津 一成 様	50,000 円
昭和 44 年卒業	石田 憲夫 様	50,000 円
昭和 44 年卒業	並河 和之 様	50,000 円
昭和 45 年卒業	田中 貞雄 様	50,000 円
昭和 46 年卒業	北尾 哲郎 様	50,000 円
昭和 46 年卒業	浅利 好史 様	50,000 円
昭和 46 年卒業	岩崎 恭史 様	50,000 円

昭和 49 年卒業	山崎 啓一 様	50,000 円
昭和 52 年卒業	山本 英司 様	50,000 円
昭和 53 年卒業	石塚 清司 様	50,000 円
昭和 53 年卒業	出石 賢司 様	50,000 円
昭和 54 年卒業	北崎 成樹 様	50,000 円
昭和 54 年卒業	後藤 晃 様	50,000 円
昭和 57 年卒業	岩本 憲彦 様	50,000 円
昭和 58 年卒業	山口 祝嗣 様	50,000 円
昭和 58 年卒業	田村 憲一 様	50,000 円
昭和 59 年卒業	馬場 雅彦 様	50,000 円
昭和 61 年卒業	齋藤 斎 様	50,000 円
昭和 61 年卒業	猪早 明彦 様	50,000 円
昭和 38 年卒業	北之坊 皓司 様	20,000 円
昭和 42 年卒業	丹下 忠彰 様	10,000 円
昭和 42 年卒業	大西 康之助 様	10,000 円
昭和 42 年卒業	梅原 忠雄 様	5,000 円

ご芳名のみ

昭和 39 年卒業	吉崎 信一 様
昭和 48 年卒業	森本 啓嗣 様
昭和 53 年卒業	樫尾 輝之 様
昭和 54 年卒業	工藤 龍雄 様
平成 1 年卒業	鍵 圭一郎 様
平成 4 年卒業	川津 智典 様
平成 13 年卒業	廣石 佑志 様

匿名

100,000 円	1 件
80,000 円	1 件
50,000 円	1 件
30,000 円	1 件



編集後記

Editor's note

先輩からお話をお伺いさせていただき、特別インタビュー、今回は福井正憲様をお願いを申し上げます。

訪問させていただきました福寿園様本社は木津川市にあります。先頃「伊右衛門ティーガーデン」「茶間屋ストリート」を新設され、「山城館」として日本茶文化を国内外に広く伝える拠点となっております。

福井様のお話は実に楽しいものでした。エネルギーシユにいくつものクラブを創設された中学時代、60点作戦で効率良く学問と社会勉強を修められた大学時代。その根底にあつたのは、家業を継がれるという決心と拝察致しました。

また、30〜49才は企業活動、50〜69才は社会活動、70〜89才は地球旅活動と、福井様は年代毎に種々の活動をなさってこられました。それらの活動を通じての「歴史に学び地球に学ぶ」というお考えに、なるほどと感心致しました。

福井家の家訓は「無声呼人」、徳のある人の所には呼ばずとも人が集まることを意味します。この家訓の額の前でお写真をいただき、インタビューは終了致しました。

お土産に頂戴した、福井様が上梓された「地球を知る旅日記」を楽しんで読ませていただいております。側にあるのは、もちろん日本茶・伊右衛門。

健康にも良いお茶、皆様もゆつくりとティータイムをお楽しみ下さいね。

〈 同経会 公式facebook 〉

同経会 - 同志社大学経済学部ob・og会 -

お持ちのスマートフォンのカメラで下のQRコードを読み取り、「いいね!ボタン」を押してください!

公式WEBサイトの更新情報、同経会で開催されるイベントをリアルタイムで発信・お知らせいたします!



経済学部卒業生の方は
ぜひご受講ください!

[https://www.facebook.com/
dokeikai.doshisha/](https://www.facebook.com/dokeikai.doshisha/)

同経会役員名簿

役名	委員会 他	氏名	卒業年
永久フェロー		千 玄室	故人
名誉顧問		秋山 哲	昭和32年
名誉顧問		井上 礼之	昭和32年
名誉顧問		福井 正憲	昭和33年
名誉顧問		播島 幹長	昭和33年
名誉顧問		森本 弘道	昭和34年
名誉顧問		細見 吉郎	昭和34年
名誉顧問		西口 廣宗	昭和34年
名誉顧問		岩崎 隆	昭和35年
名誉顧問		吉田 忠嗣	昭和35年
名誉顧問		小嶋 淳司	昭和37年
名誉顧問		渡邊 隆夫	昭和37年
名誉顧問		高木 壽一	昭和39年
名誉顧問		服部 盛隆	昭和41年
名誉顧問		岡田 博邦	昭和46年
名誉顧問		北尾 哲郎	昭和46年
名誉顧問		昌尾 一弘	昭和46年
名誉顧問		村田 恒夫	昭和49年
名誉顧問		小川 佳秀	昭和50年
名誉顧問		八田 英二	特別
名誉顧問		東 良彰	特別
会長		田堂 哲志	昭和52年
副会長	支部委員会担当・委員長	土橋 純二郎	昭和58年
副会長	企画渉外委員会担当・委員長	中村 恭俊	昭和60年
専務理事	財務委員長	鍵 圭一郎	平成1年
監事		小杉 將之	平成1年
監事		横田 聡	平成3年
執行理事	支部（東京）	高橋 健治	昭和44年
執行理事	企画渉外	立木 貞昭	昭和44年
執行理事	総務支援（つどい）	松井 信五	昭和45年
執行理事	支部（大阪）	志賀 茂	昭和47年
執行理事		萱原 昇	昭和49年
執行理事	総務支援（名簿長）（つどい）	西村 猛	昭和49年
執行理事	総務支援（つどい）	松尾 卓志	昭和49年
執行理事	総務支援委員長	中島 信幸	昭和50年
執行理事	総務支援（総務）	奥 敏郎	昭和51年
執行理事	総務支援（インターンシップ）	神山 研一	昭和52年
執行理事		石塚 清司	昭和53年
執行理事	財務	伊豆蔵 健之	昭和53年
執行理事	支部（大阪副支部長）	新村 明男	昭和53年
執行理事	支部（大阪）	早瀬 孝行	昭和53年
執行理事	支部（東京）	青木 重之	昭和53年
執行理事	支部（東京）	松谷 哲	昭和53年

役名	委員会 他	氏名	卒業年
執行理事	支部（東海支部長）	岩村 稔	昭和54年
執行理事	総務支援（つどい）	谷村 俊治	昭和54年
執行理事	総務支援（広報委員長）	中谷 豊美	昭和54年
執行理事	企画	村田 市郎	昭和54年
執行理事		小平 真滋郎	昭和55年
執行理事	総務支援（総務）	高田 啓史	昭和56年
執行理事		牧野 正裕	昭和56年
執行理事	しめた会会長	宮村 定男	昭和56年
執行理事	総務支援（インターンシップ）	吉井 英雄	昭和57年
執行理事	支部（東海）	今村 浩一	昭和57年
執行理事	支部（東京支部長）	田村 憲一	昭和58年
執行理事	総務支援（総務）	若田 昌宏	昭和58年
執行理事	総務支援(副委員長)	山口 祝嗣	昭和58年
執行理事	支部（東京）	阿部 聡一	昭和59年
執行理事	総務支援（インターンシップ）	鎌田 伸一	昭和59年
執行理事	総務支援（総務チーム長）	藤井 宏樹	昭和59年
執行理事	総務支援（広報・HP）	馬場 雅彦	昭和59年
執行理事	総務支援（インターンシップ長）	荒木 勇	昭和59年
執行理事	支部（東京副支部長）	末永 雅春	昭和60年
執行理事	企画	久保 行央	昭和61年
執行理事	企画	齋藤 斎	昭和61年
執行理事	支部（大阪副支部長）	佐野 克也	昭和61年
執行理事	企画	松井 勝史	昭和61年
執行理事	支部（大阪）	小原 康正	昭和62年
執行理事	しめた会	山下 泰生	昭和62年
執行理事	支部(東海)	池田 香	昭和62年
執行理事	しめた会	遠藤 裕策	昭和63年
執行理事	企画（副委員長）	沼井 哲男	昭和63年
執行理事	支部（東京）	今田 素子	平成1年
執行理事	しめた会	前田 敦	平成2年
執行理事	支部（大阪）	山神 孝志	平成2年
執行理事	企画	川井 成人	平成2年
執行理事	支部（東海）	川津 智典	平成4年
執行理事	しめた会	齊藤 賢一	平成4年
執行理事	支部（東京）	大川 倫子	平成4年
執行理事	支部（大阪支部長）	清水 友紀	平成6年
執行理事	しめた会	高木 伸浩	平成6年
執行理事	支部（大阪）	流谷 輝幸	平成6年
執行理事		伊藤 弥生	平成7年
執行理事	支部（大阪）	植田 健一	平成7年
執行理事	支部（東海）	近藤 裕幸	平成7年
執行理事	支部（東京副支部長）	志井 慶吾	平成9年
執行理事	しめた会	西田 猛	平成9年
執行理事	支部（大阪）	馬場 圭吾	平成12年
執行理事	しめた会	北岡 淳平	平成12年
執行理事	支部（大阪）	南部 隼人	平成12年

役名	委員会 他	氏名	卒業年
執行理事	支部（大阪）・しめた会	廣石 佑志	平成13年
執行理事	支部（大阪）	河合 裕子	平成13年
執行理事	支部（大阪）	佐々木 真一	平成13年
執行理事	しめた会	中元 栄智	平成14年
執行理事	支部（大阪）	八木 香織	平成14年
執行理事	支部（大阪）	荒川 有理	平成14年
執行理事	支部（東海）	世古 佳緒里	平成14年
執行理事	支部（大阪）	山口 貴司	平成15年
執行理事	支部（大阪）	天井 亮介	平成16年
執行理事	しめた会	田中 秀和	平成19年
執行理事	企画・しめた会	福島 明彦	平成20年
執行理事	支部（大阪）	杉本 侑亮	平成20年
執行理事	支部（大阪）	太刀掛 浩司	平成21年
執行理事	しめた会副会長・総務支援（HP長）	三輪 幸徳	平成22年
執行理事	支部（大阪）	室屋 恭平	平成22年
執行理事	しめた会・総務支援（HP）	小垂葉 亮	平成23年
執行理事	支部（東海）	関本 駿	平成24年
執行理事	支部（大阪）	十亀 秀仁	平成24年
執行理事	支部（東海）	長谷 優太	平成24年
執行理事	支部（東海・大阪）	岡 洋文	平成25年
執行理事	しめた会・総務支援（HP）	橋本 義彬	平成26年
執行理事	しめた会	小寺 友樹	平成26年
執行理事	しめた会	首藤 康宏	平成26年
執行理事	しめた会	小野 梓	平成26年
執行理事	しめた会	熊田 里沙	平成27年
執行理事	支部（東海）	藤原 弘明	平成27年
執行理事	しめた会	立田 志帆	平成29年
執行理事	しめた会	浅井 香帆	平成30年
執行理事	しめた会	棚橋 玲花	平成31年
執行理事	しめた会	渡辺 智帆	令和3年
理事		橋本 久幸	昭和38年
理事		田島 繁	昭和41年
理事		饗庭 一慶	昭和46年
理事		池田 博義	昭和46年
理事		山本 源兵衛	昭和49年
理事		山添 俊之	昭和55年
理事		大谷 淳子	平成16年
理事		竹廣 良司	特別
理事		新関 三希代	特別
理事		谷村 智輝	特別
理事		角井 正幸	特別
理事		宮本 大	特別
理事		横井 和彦	特別

2026年4月1日現在

同経会WEB名簿システムの廃止について

同経会ではWEB名簿システムを構築し、会員の皆様への情報提供や会員相互間のコミュニケーションの増進を目的に活用してまいりました。

一方、同志社大学校友課では卒業生名簿の統合管理の目的でDOOネットを構築して既に活用しているところであります。同経会においてもこのDOOネットの名簿を活用して各種ご案内に利用させて頂いております。

つきましては、現在二元管理の状況にある名簿管理を是正するために、大学校友課管理の名簿に一元化し、2026年3月31日をもって同経会WEB名簿システムを廃止することといたしました。現在、会員皆様の利用状況は多くなく、システムの管理負担と費用も勘案して廃止の結論に至りました。

今後、会員の皆様において住所変更など登録内容に変更があった場合は、同経会ホームページの「ご登録・各種変更フォームはこちら」をクリックいただきご入力お願いいたします。

このWEB名簿廃止にあたっては、同名簿を管理しているシステム会社において登録情報が完全に消去されることを同経会が責任をもって確認いたします。

また、現在登録されている個人情報につきましても、今後の同経会の活動に資するため必要により引続き活用させていただきますが、同経会個人情報取扱規程に基づき厳格に管理いたしますのでご理解いただきたくよろしくお願い申し上げます。

以上ご案内申し上げますが、ご不明な点等がございましたら同経会事務局までご連絡ください。

以上

<連絡先>

同経会事務局(担当:松島)

TEL:075-251-3524

FAX:075-251-3136

E-mail:info@dokeikai.com

同志社大学経済学部 OB・OG会

同経会総会 卒業生のつどい

総会・講演会・懇親会

他学部の方も参加頂けます！

同志社大学経済学部をご卒業の皆様・同志社関係者の皆様、同志社の更なる発展のために、経済学部の卒業生・学生が一同に集まります！ぜひご参加ください！

2026. **7.18** SAT

受付開始16:00

開会16:30 終了予定20:30

参加申込締切 7月4日(土)

会場 ホテルオークラ京都 3階・翠雲の間
〒604-0924 京都市中京区一之船入町537番地の4
TEL 075-211-5111 (代表)
地下鉄東西線「京都市役所前駅」直結

参加費 先着30名限定
一般 **10,000** 円 学生 **2,000** 円
ビュッフェ・フリードリンク付

私たち学部同窓会には明確なアイデンティティがございます。それは、「ゼミ」の存在です。皆様が所属したであろう運動部や文化系サークルなどと同様に、母校愛・同志社愛の源泉であると考えています。経済学部卒業の皆様、どうぞ今年も「同経会つどい」にご参加ください。



同経会会長 田堂 哲志



記念講演「今に生きる同志社の学び」

株式会社京都銀行 取締役頭取 **安井 幹也氏**

プロフィール

京都府宇治市出身。同志社香里中学、同志社香里高校を経て同志社大学経済学部へ入学。大学時代、岩根ゼミにて金融論を学んだことが一番の思い出。大学卒業後、1987年京都銀行に入行。寺町二条支店長、秘書室長、人事部長等を歴任後、2017年取締役、2018年常務取締役役に就任し、2023年6月より現職。2023年10月にグループ経営の強化、事業領域の拡大を目的に京都フィナンシャルグループを設立し、持株会社体制に移行。「地域社会の繁栄に奉仕する～地域の成長を牽引し、ともに未来を創造する～」という経営理念のもと、長期持続的な企業価値の向上に取り組まれている。

座右の銘は「やらぬ後悔よりやる後悔」。行動せずに後悔するのではなく、挑戦することで自分の可能性を広げ、自己成長に繋げてほしいと行員に伝え、前向きな行動、積極的な挑戦を後押ししている。

スケジュール

- ①16:30～ 総会
- ②17:30～ 講演会
- ③18:40～ 懇親会

お楽しみ
大抽選会
実施！

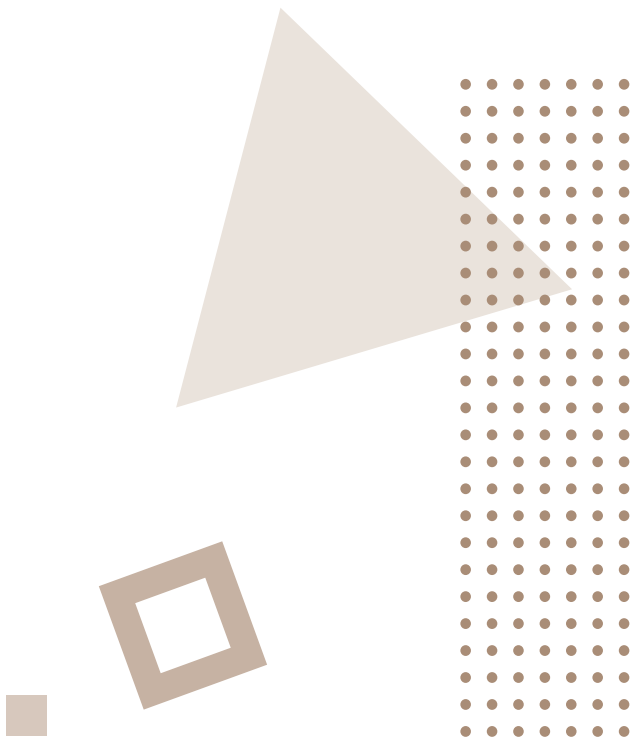
他学部卒業・学生の方は講演会・懇親会からご参加下さい。

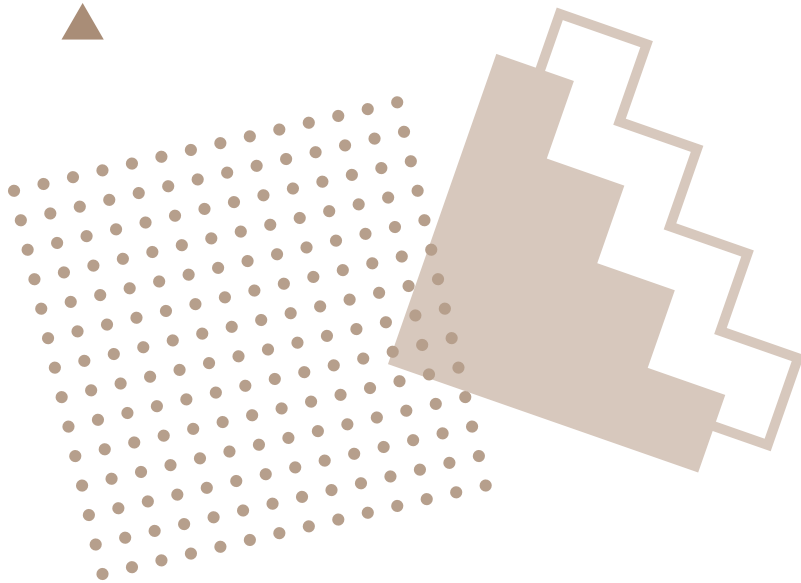


←申し込みは左記QRコードよりご登録をお願いします。

あるいは、info@dokeikai.com 宛に、『同経会総会・卒業生のつどい』と明示し、参加希望者の①卒業年(卒業見込み年)②お名前③住所④連絡先電話番号⑤メールアドレス をお知らせ下さい。同経会事務局 TEL: 075-251-3524

企画・運営メンバー大募集！！一緒に企画運営のお手伝いをして頂ける方を募集しています！







同志社大学経済学部 同経会

〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
TEL : 075-251-3524 FAX : 075-251-3136
URL : www.dokeikai.com

2026年5月 発行

編集 : 総務支援委員会 (広報・HPチーム)

発行人 : 同経会会長 田堂哲志